



Anchor

アンカー

INSIDE

- ニュースウォッチ 3
良心の自由の危機か
ネルソンの貢献-日本国憲法 14
ジグソーパズルから学ぶ教訓 19
アドベンティズムの動揺 27

59号
2017年8月

「歴史は繰り返す」とよく言われる。繰り返すばかりでなく、今日はグローバルのスケールであらゆる分野で過去のことが繰り返されている。そればかりでなく、急速化してどこかに向かって突進していると感じている人は少なくはないと思う。頻度と規模において記録的な異常気象や天変地異、政治情勢や経済情勢の不安定さ、混乱は世界的な現象である。イスラム国によるテロの脅威、シリア問題、国々の暴動、難民問題、英国のEU離脱問題からヨーロッパの動揺に目が向けられたかと思うと、今度は北朝鮮ICBMの発射実験に成功したとのニュースに、日、米、韓ばかりでなく、国連も各国も危機感をもって緊急会議を開いた。日本ばかりでなく、米国本土に到達できる飛行距離を持つとして大きな問題となっている。

だから、世界で最も重要な課題は、「平和と安全」であろう。そのために対話と同盟で解決しようとする。条約を結んでは破りまた戦う。人間の世界に争いなき安住の地はどこにもないことを歴史は教えている。

しかし、どんな問題が起こっても、聖書の預言を信じない人々にとっては、「歴史は繰り返す」という言葉は、輪廻説のように捉えられている。それらは一過性のもので、またいつかどうにかなると思っている。あと100年、200年のことを考えて続く次世代のためにと、より良い政治、平和運動を行う。

人々は世界に起ろうとする事を思い(予想し)、恐怖と不安で気絶する(気を失う)であろう(ルカ21:26)。まだ気絶するまでには至っていない。なぜなら「もろもろの天体が揺り動かされ」てはいないから。しかし「国が始まってから…かつてなかったほどの悩みの時がある」(ダニエル12:1)とされている。一方でこの世界は、ノアの洪水前のごとく飲み食い、建てるに夢中になり、ソドム、ゴモラの如くなるとも預言されている。テレビ番組もうんざりするほどである。多くの人はなるようになれと思っているのだろうか。もう考えることに疲れているのだろうか。「考える人は5%で、考えていると思っている人は10%で、他は考えるよりは死んだ方がまし」と言われているようだ。

あまりにも急速に動くニュース、しかも専門の評論家の複雑さと混乱についていけない中で、聖書の観点から見ると、キリストの再臨が確実に近づいていることを知らされ、希望に満たされる。

共謀罪-テロ等準備罪法案が強硬に採決されたことは、信教自由とどんな関係があるのかを取り上げてみた。

戦後の新日本憲法に「信教の自由」という文言を入れたのは、SDAのネルソン博士であったことを知ったのは驚きであった。

ジグソーパズルから聖書解釈、健康法、対人関係の法則を知ることも、なるほどと理解させてもらった。プロテスタント教会が3万3千の教派に分かれている理由は、一つは聖書解釈の法則から外れていることに起因しているのである。

SDAの神学の動揺は、多くの信者を動揺させている。正しい「健全な教え」を知ることはどんなに重要なことであろう。世界の混乱、教会の混乱から脱出して、神であり人となられたお方の、新天新地にしか望みはない。真のセブンスデー・アドベンチストでありたいものである。

矢内原忠雄氏(元東京大学総長)の再臨信仰告白にあやかりたいものである：

「人類の平和に加うるに天地万物の平和、幸いなるは主の再臨の日である。われらはこの再臨を待ち望むのである。これが信者の『望み』である。今や、人生難行、国家社会また難行である。しかしイエスは彼を信ずる者を救うために、急ぎ来り給います。長き病の床に、或いは行き悩む人生の旅路に、しかしてまた歴史の終末において、イエスは人類を救うべく急遽再臨し給うのです。ああ、人生の夜が明けて、イエスの救いをわが側に見奉る時はどんなに幸いでしょう。また、人類の夜が明けて、この地球とこの国土に神の国が成就する時は、いかに幸いでありましょう。」

サンライズミニストリー代表 金城重博



PROPHETIC 預言的 NEWS WATCH 時事ニュース



我々の使命は、

①真のキリストは、天の至聖所で何をしておられるか、

②反キリストは地上で何をしようとしているか

を発信することである。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです」ヨハネ 17:3



世界の指導者たち G20 に送ったフランシスコ 法王のメッセージ

バチカン放送局 07/07/2017



「地の王」たちは力と権威とを獣に与える

「教皇フランシスコは、ハンブルクで開催の G20 サミットの参加者に、メッセージをおくられた。

第 12 回主要 20 カ国・地域首脳会議 (G20 サミット) が、7 月 7 日 (金)、8 日 (土) の日程でドイツ北部・ハンブルクで行なわれている。

教皇は、同サミットで議長を務めるアンゲラ・メルケル独首相に宛てたメッセージで、各国の統治者の心と、政策実施のあらゆるプロセスにおいて、国や、民族、宗教、文化を越えて、貧しい人々や、難民、避難民、苦しみ疎外された人々に絶対的な優先性が与えられるようにと希望された。

教皇は特に南スーダンや、チャド湖周辺地域、アフリカの各地域、イエメンなどにおける深刻な食糧・水不足を指摘。これらの状況に対する迅速な支援・対応を呼びかけられた。

今日も世界各地に広がる多くの紛争を見つめつつ、教皇は『戦争は決して解決にならない』と強調。

こうした状況に終止符を打つためには、軍拡を止め、戦争への直接・間接の関与を取り下げること、紛争のレベルを低下させていかなばならないと述べている。

教皇は G20 サミットの参加者に責任ある連帯の精神

が息づくことを願いながら、『刷新的で、相互に結びつき、持続可能で、環境に配慮した、すべての人を受容する発展』を可能にするための、同会議と国際社会の努力に、神の祝福を祈られた」。

フランシス法王は、G20 のリーダーに、G20 の現在の会長、アンジェラ・メルケル首相に送った 1200 語の手紙を演説した。その手紙で、ローマ法王は世界的な統治、貧困と移住の平和な方法と問題の相違を解決する必要事に焦点を合わせた。

世界は羅針盤を失って危機と混乱と墮落に直面しているときに、世界の道徳の指導者はローマ法王しかいないと認めるところに向いている。

黙示録 17:1 「さあ、きなさい。多くの水の上にすわっている大淫婦に対するさばきを、見せよう。」

17:2-13 地の王たちはこの女と姦淫を行い、地に住む人々はこの女の姦淫のぶどう酒に酔いしれている。…ひとりの女が赤い獣に乗っているのを見た。その獣は神を汚すかすかすの名でおおわれ、また、それに七つの頭と十の角とがあった。…あなたの見た十の角は、十人の王のことであって、彼らはまだ国を受けてはいないが、獣と共に、一時だけ王としての権威を受ける。彼らは心をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える。

黙示録 13:3 その頭の 하나가、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて（讚嘆して - 祥訳聖書）、その獣に従い」

間もなく、「地の王たち」 - 世界の指導者たちと、「不法の者、滅びの子」(2 テサロニケ 2:3, 4) 大淫婦であるパチカン、世界統一政府 (NWO) を狙っている。「反キリスト」のパフォーマンス (演技) は世界の人々を魅了している。我々は今こそ、天から地に遣わされ、十字架で身代わりとして死なれ、天に帰られ、至聖所で血をもって最後の執り成しをしておられるイエスを目を向けようではないか。

良心の自由の危機か

共謀罪-テロ等準備罪法案の意味するもの

日本の国会は 2017 年 6 月 15 日朝、テロ攻撃の共謀行為を計画段階から処罰できるようにする「テロ等準備罪法案」を可決成立させた。「共謀罪」を含む「改正組織的犯罪処罰法」については、国内で反対の声も多い。



なぜ、彼らは反対するのか

マスメディアは、法案可決以前も以後の今も国民の賛成か反対かで専門家の意見を連日のように報道したり、北海道から沖縄までの国民のデモを報じている。

共謀罪 = 「テロ等準備罪」の危険 - 治安維持法の再来と叫んでいる国民は少なくはない。ある人々は、テロ等準備罪法案は戦前の治安維持法と同様に、思想及び良心の自由を侵害しかねない危険性をはらんでいると声を大にして警告している。

いくつかの記事を見てみよう：

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/culture/hiroba/CK2017040802000217.html>

「思い出されるのは第二次大戦前の治安維持法です。政府当局は『細心の注意を払い乱用しない』『社会運動が抑圧されることはない』などと発言していました。事実はどうだったか。当初、取り締まりの対象は社会主義者でしたが、やがて新宗教や自由主義者らにまで拡大し、約七万五千人が送検されました。

監視による閉塞した社会が戦争を生み出したことを歴史が示しています。強面の政治が国の内外に耐えがたい惨禍を招くことを、歴史の知見として心に刻むべきです。

市民の人権・自由を広く侵害する共謀罪創設に反対 ... - 日本弁護士連合会



- 1 信仰によって、恐怖と萎縮の社会を拒絶する。
- 2 戦争と戦争する国を拒絶する。
- 3 宗教者・信者は再び壮絶な宗教弾圧に遭遇することを拒絶する。

<http://www.labor.net.jp/news/2017/0601makiko>

カトリック団体が反対声明、戦中の弾圧にも言及—クリスチャン・トゥデー

「日本カトリック正義と平和協議会は24日、反対声明を発表。

第2次世界大戦下では、治安維持法により多くの宗教弾圧が行われ、日本のカトリック教会でも司祭や修道者、信者らが逮捕・勾留されることは多くあった。パリ外国宣教会のシルベン・ブスケ神父は、天皇への不敬言動やスパイ活動などの容疑をかけられ、拷問を受けて亡くなった。同協議会は声明でこうした過去の弾圧について触れ、『私たちの信仰するカトリックの教義が、権力にとって都合の悪い危険思想と見なされたからです』と説明。同法案が国家に恣意的に用いられた場合の危機感をにじませた。 <http://www.christiantoday.co.jp/articles/23810/20170524/kyobozai-catholic-council-for-justice-peace-statement.htm>



なぜ、カトリックは反対の立場に立っているか。日本史において、恐ろしいほどのキリシタン弾圧を経験したからである。しかし、ローマ法王教がいったん有利な立場に立てば、彼らが同じ信教の自由を弾圧することは、歴史が証明している。

「法王ピオ9世は、1854年8月15日の回勅の中で『良心の自由を擁護するという不合理で誤った教理あるいはたわごとは、きわめて有害な誤謬、すなわち、国家にとってほかの何よりも恐れねばならない病毒である』と言った。同じ法王は、1864年12月8日の回勅の中で、『良心の自由と、宗教上の礼拝の自由を主張する者』また『教会は暴力を用いてはならないと主張するすべての者』をのろった。

米国におけるローマの穏やかな態度は、心の変化を意味するのではない。この教会は自分が無力であるところでは寛大である。オコンナー司教は、『カトリックの世界に危険を及ぼすことなく反対政策を実施できるようになるまで、信教の自由をがまんしているにすぎない』と言っている」大争闘下 320。

「現在ローマ教会は、その恐ろしい残虐行為の記録

を弁解しながら隠し、世界にもっともらしい顔を見せている。この教会はキリストのような衣を装っている。しかし教会は変わっていない」大争闘下 328。

「ローマ教会は決して変わらないということがこの教会の自慢の種であることを忘れてはならない」大争闘下 340。

◆ある記事に次のように書いてあった：

「2020年に開催予定の東京オリンピックを控えて、『テロ対策』が必要だ！国際組織犯罪防止条約を締結する為には日本国内の法整備が不可欠だ・・・国民は、『そりゃそうだ！』と納得をしそうな理屈をつけて実は安倍政権は危険極まりない法案を国会に提出したのだ！暴力団などの反社会的団体組織が犯す罪の処罰内容を定める、『組織的犯罪処理法』の改正案こそが偽りのテロ対策という名の『共謀罪』なのである！安倍政権は『共謀罪』とはせずに『テロ等準備罪』と名を変えて我々、国民を欺こうとしているのだ！とにかく『テロ』という文字を何処かへ入れろ！それで、つい最近『テロリズム集団』という言葉をつけ足したのである！」 http://d.hatena.ne.jp/mutuki_2010/20170412/1491940932

◆「内心の自由を保障し、民主主義を守るために『共謀罪法案』を問う弁護士・海渡雄一氏（4月28日、東京・新宿区で行われた時事問題市民学習会の講演から）

共謀罪法案が成立すると、戦前の「治安維持法」が濫用された時代のように、監視社会になってしまう危険があります。治安維持法と共謀罪法案には、類似点がいくつもあるからです。

治安維持法が成立したのは1925年、「国体変革」と「私有財産の否認」を掲げる結社を禁止する法律で、当初は共産党に適用され、共産党に関係する人々が逮捕され、拷問を受けました。

この法律は2度改正され、刑期が引き上げられ、自選弁護人が禁止になりました。宗教団体も弾圧を受け、関係者が検挙され、教義の変更を強要された団体もあります。

治安維持法と共謀罪法案の共通点はまず、団体を取り締まろうとする刑事法規であるという点。それから、処罰の範囲が非常に不明確で、どんどん拡大されて、適用される危険性があるという点です。そうした危険があると、体制に抵抗しようとする団体は全て弾圧されることになりかねません。

さらに、今回の共謀罪法案が成立し、広く適用されると、人々は「何をしてもいいのか、何をしてもいけないのか」という基準が不明確になります。犯罪という

のは、「これをしてはいけません」ということを市民に命じているわけですが、裏を返すと、そこで命じられている行為をしない限り、人の行動は自由が保障されているということなのです。

共謀罪法案は、国家が市民社会に介入する際の境界線を大きく引き下げてしまいます。国家が、本来なら自由に活動できる市民社会の、非常に深いところまで入り込み、人間の内心にまで踏み込んでくる法律になるのではないかと思います。

監視されているかもしれないという恐怖の中で市民が萎縮してしまう。政府の方針や国家の意向に意義を唱えたら捕まるという国になったら、民主主義のプロセスそのものが失われ、社会の進歩は止まります。共謀罪法案は、民主主義と基本的人権を危険にさらす恐ろしい法案なのです」。https://shimbun.kosei-shuppan.co.jp/kouenroku/6590/2/



セブンスデー・アドベンチストに対する警告！

今日のテロ等準備罪法案が可決された理由も似ていないだろうか。

もちろん、政府は、北朝鮮の脅威におびえているとは言っているものの、法案を強行に可決した理由は他ににあると思う。それは、テロリズムが国際問題（特にイスラム国家において）になってきたからではないだろうか。2020年に東京でオリンピックが開催される。「国際社会と協力して」がキーワードになっている理由は、テロリズムが国際的最大の問題になっているからではないだろうか。だから、「反テロ法案」が各国でできているのである。ある評論家はもうイスラム過激派の動きは下火になっているという。しかし、聖書の預言の視点から見るともっとエスカレートして「北の王」有志連合国によって撲滅されるであろう。（ダニエル 11:40～）。

2001年9.11のアメリカ同時多発テロ事件以来140か国が反テロ法案を通過させた。いくつか挙げると、カナダ、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、パキスタン、アフリカ、ヨーロッパの諸国、アジア諸国、アラブ諸国等々…https://www.hrw.org/news/2012/06/29/global-140-countries-pass-counterterror-laws-9/11

◆ロシアでは、7,000の教会が最も恐ろしい法案だと断食祈禱 <http://www.charismanews.com/world/58295-7-000-churches-fasting-praying-over-terrifying-new-persecution-law>

反テロ関連法として教会外での伝道を禁じる伝道規制法が成立したロシアで、教会指導者が逮捕された。
2016年9月6日。

歴史は繰り返す

ベンジャミン・G. ウイルキンソン（SDAの学者、当時の米務長官、コルデル・ハルから高く評価され、特別な学問的待遇を与えられたと言われている。聖書の歴史について一般の学者からも非常に高く評価されているが、何故か、SDAのある指導者たちは、彼を超保守派で古い学問の保持者と呼んでいる）：

「過去に関する正しい情報なくして現在を正しく理解することは決してできない。偽った歴史を教えられた者、あるいは歪んだ諸事件の解釈で心を満たした者は、闇の心で盲人の如くによろめき歩くのである」真理は勝利する、p11.

戦時中の治安維持法がセブンスデー・アドベンチスト教団へどのような弾圧となって襲ってきたかを振り返ってみよう。

治安維持法による宗教弾圧！

以下「使命に燃えて」より抜粋

「1941年治安維持法案が9か条から65か条へと大幅に拡大された。その当時おそらく宗教界で、この法律に違反する対象となるなど思った者はなかったであろう」（342頁）。

「治安の名のもとに、政府が宗教を圧迫する魔の手がだんだん近くまで伸ばされていく（同346）。「民意の公表とか上奏とかは嚴重に取り締まれた」（347）。

「治安国家日本に、その結晶として治安維持法が制定された結果、我が国に恐怖政治時代を到来させたのは東条内閣の時であった。… ナチのごとく一國一党の野党なき政府の専横はその極に達し上意下達をしいられた国民は、完全に自由を拘束されてしまった。この頃の政府は、全国民を犯罪人にするににあった観があった。しかもこうした情勢の中で、聖書の主義を堅持するセブンスデー・アドベンチスト教会を見逃すわけではなく、官憲による周到綿密な調査網は次第に狭められ、弾圧の足音は戸口に迫っていた」（同、350）。

「日清戦争終結直後から、キリスト教の著名な人たちによってマルクス主義社会主義が紹介され始めたため、政府は、その極度に嫌っていた社会主義はキリスト教の温床で育つものと考え、結社が結成されるとたちまち禁止した。その極めて敏感になっているとき、SDA教団の声を大にして宣布する教義に対して疑義（疑問）を持ち続ける」（同 351）。

宗教界への波及

更に昭和 16 年（1941）3 月 10 日、法律第 54 号をもって、治安維持法の 9 カ条を 65 カ条に大改正の上、公布し、5 月 15 日施行した。この法律は、単に共産主義の取締りに限らず、政府にとってあらゆる好ましからざる主義、思想の取締りに備えたものであったので、政治家、軍人、教育家、財界人たちが左傾右傾の区別なく検挙、残忍きわまる拷問を受けた。

この嵐の吹きすさぶ只中に、無傷に見過されていたのは唯一つ宗教界であった。しかし、ついに検挙の手はこの方面にも伸びはじめたのである。一般に宗教家は法律には極めて疎く、ほとんど無知であった。それゆえ各宗教団体は、昭和 14 年（1939）12 月 23 日施行の「宗教団体法」に振りまわされ、監督官庁である文部省または県庁に日参していたとき、内務省、司法省の管轄下にある治安維持法が、その法文の上から考えても全く無縁のものとして関心をもたなかった。

セブンスター・アドベンチスト教団への弾圧

昭和 18 年（1943）9 月 20 日、それは太平洋戦争において南太平洋にまで延び切った日本軍の戦線が、ガダルカナル島の退却から無惨に切断され、敗戦の色濃い頃、かねて教会の諸集會に出席し秘かに治安維持法に違反の事実を確認する工作を完了した警察は、その日の午後 6 時を期し、一斉に SDA 教団に属する全国の教会を襲い、42 人の教職者並びに有力信徒らを逮捕投獄したのである。その検挙の理由は治安維持法違反被疑者としてであった。

中略……

検挙から仮釈放まで仕掛けられたわな

昭和 18 年（1943）5 月下旬、第 14 回総会が終わる頃ともなると、東京はもちろんのこと、各地方教会に、警察官がしばしば訪問して、安息日が土曜日である理由、キリストの現象的再臨の違法、預言の曲解等々、いわくありげな質問を繰り返すので、牧師たちから善処かた（適切に処置すること）を明示して欲しいと伝道本部に要求してきた。そこで相談の結果、まず関東並びに東北地方にある諸教会を巡回して、わが教会と政府一主として文部省、警視庁、厚生省一と良好な関

係にあることを告げ、たとい冷厳な時局下にあっても、われわれが純粋な宗教団体である限り気遣う必要はないと、政府への信頼感を固めさせた。

戦前の日本人なら、特殊な思想・主義を固持する者を除いては、ほとんどの者が封建制度の遺物である「お上至上観念」を骨の髄まで浸透させていたので、現人神たる天皇を元首と仰ぐ政府一お上への信頼度は絶対のものであった。それゆえ神聖なるべき帝国軍人並びに官吏などが、自国民を食いものにして己が身の安寧をたくらむとは全く夢想だにできなかった。しかし現実としては、特権階級におさまる権力者たちは、多数国民の犠牲において己が栄進と安全を画策し、汲々としてこれを実行したのである。

こうした皇国の至上意識は、知らないうちに、最も忠良な臣民たらんとする SDA 教会の温和な人たちにも感応していたため、当局のある者らが仕掛けた罠に気づかなかつたのである。それはあたかも鳥が獵師の仕掛けたカスミ網に気づかないように、かの改正治安維持法が SDA 教会の前に張られていることを知るよしもなかった。その証拠に検挙されたとき、大部分の容疑者たちは、何のために突然警察署からの迎えを受けたか知らなかった。また弾圧への心構えができていなかったために、信徒たちの驚きも大きく、結果的には伝道本部員の不始末がこの大不祥事を招来したのだと激しく批判された。

検挙の手筈

逮捕の準備を完了した内務省警保局、司法省検事局、警視庁特高第 2 課宗教班は、互いに連繫を保ちながら行動を起こしたが、宗教に関する直接の監督官庁たる文部省宗教局には全く内密にして、かねて治安維持法違反容疑者に指定された SDA 教会の 42 名に対して、昭和 18 年 9 月 20 日午前 6 時、一斉検挙を行った。

この人々の多くは教職者であって、北は北海道から南は台湾、南洋パラオにまで及んでいた。そして逮捕された人々の処遇は、所によって幾分かの相違はあったであろうが、大体は似かよっているの、容疑者の 1 人として筆者が経験した跡を記して当時の模様を紹介する。

梶山牧師の検挙



筆者（梶山積）は、同年の 8、9 月に関東と東北地方を巡回したが、その頃戦局の不利は益々国民に影響し、官憲の圧力が強まるばかりであった。それにもかかわらず、次々にバプテスマ式も挙行したほど教勢は進んでいるの

で、感謝に満たされ、御名をたたえつつ9月17日（金曜日）に帰京した。

このとき『健康と人生』のため20日（月曜）に間に合うように特別記事を書かねばならなかった。そこで、その前日は徹夜して午前4時にやっと書き終わった。

ひと眠りしたとき、**玄関に訪う人の声**がした。やがて数名の人々が応接間に入るや指導格の刑事が名刺と共に1枚の令状を示した。それは検事局の用箋に中村という検事の名があって、本文には容疑者の名前に続いて「右の者維持法違反容疑により逮捕する」とあったから、やっぱり**ホーリネス**なみに再臨問題がからんできたなと思った。そして、直ぐその後からもう1枚の紙を示したが、それには「本事件に関する証拠物件を押収する」という意味のことが書いてあった。実にこれは瞬間の出来事であったが、この時以来、厳しい監視の下につながれる身となった。つまり**日本臣民としての自由**を全く奪われてしまったのである。

早速食事するように命じられたが、その間、トイレに行くにも、家族に言いおくことも、皆刑事に睨まれながら行わなければならなかった。総勢5人の刑事たちは、容疑者の目の前で、本箱や机の中から幾冊かの和英聖書、あかしの書、注解書、新聞雑誌のスクラップ、長年間の日記帳、各種の参考書籍、大切な書簡など取り出し、情け容赦なく荒縄で縛って警視庁へ運ぶ準備をするのであった。

家族のものたちは、かたわらにいて、静かに刑事らが自宅搜索するのを手伝っていた。ためらうことなく、いずれの襖をも開いて見せるので、彼らとても、少しは気の毒に思ったのか、刑事の1人が「心配しなくてもいいですよ」と慰めていた。思えば4日前の17日に東北地方から帰り、18日の聖日には礼拝に出席したのが天沼教会での最後の講壇の務めとなったのである。

留置場入り

5人の私服刑事に監視されながら警視庁に連行された。桜田門停留所で下車し、赤煉瓦のビルを見上げたとき、これまでこの建物を幾度か出入りして、たといそれが楽しい所ではなくても、特にいまわしく思ったことなく、むしろ国民保護のため日夜労する警察官ほりばたに対して感謝の念すら抱いていたが、今日は全く違う。濠端から眺める皇居の美しい景色を賞でる気持ちも暗かった。

あかしのためだ。やるぞ！と度胸を決めたものの、一方では寂しく見送っていた家族の一人一人が目に浮かぶ。…

入口に立っている警備の巡查までが、今日は変な目つきで睨んでいる傍らを通って、先ず5階の特高課宗教班の部屋に連れて行かれた。洗面道具と少しのお金をそこに預け、1枚のハンカチだけ持参して1階に下ろされ、ついに入口の上に留置場と横書してある所に到達した。

留置場！なるほど、日本政府も血迷いだしたなと思いつつ奥の方へ進むと、少し高くなった台の上に3人の私服警官たちがすごい目玉をむいて見下ろしている。そこで連行した刑事から容疑者を受け取ると、改札口に似た柵を通って留置の準備の場所に連れられ、そこで靴と靴下を脱いで、裸足に草履（ぞうり）をはかされ、ズボンのバンドもパンツのひもも抜きとられ、全くしまりのない服装にされてしまった。そこには先着の青年が手錠をはめられて腰掛けていた。新入者もその隣に腰掛けて収容人数がまとまるのを待たされた。

それから約10分間くらい待つと、もう一人の新入者が連行された。見るとそれは日本三育女学院教師山形俊夫であった。奴さん来たなと、一種のユーモアを覚えながらも、味方が加えられたことを心強く感じた時は、ちょうど午前10時であった。

この同じ時間に、他の所でも検挙が行われ、大体同一の形式で処理されたのである。わが天沼本部構内には、警視庁から木下英治警部（木下英夫君の厳父）が大勢の刑事を引率して乗り込み、**小倉指郎**、**井村宏**、**大河平愛光**、**深沢孫次**の諸家族を襲い、逮捕と押収のためごった返した。彼らが検挙の令状を示した瞬間に、教会と福音社は即刻業務停止（学院と病院は業務の性質上しばらく猶予された）となった。

「治安維持法」で検挙された牧師の例：パラオで宣教していた山本精一牧師

「天国への旅人」より抜粋

始まり



1943年（昭和18年）5月7日頃、憲兵隊の福田曹長が突然教会を訪れ、「山本さんは居ませんか？」と言った。

そこで落合牧師夫人が出て、今留守ですと言うと、では帰ったら一寸憲兵隊に来るように言って呉れませんか、と言って帰ったとのことであった。

わたしは明後日行ってしばらく椅子に座って待っていると、福田曹長が出てきて、

「貴下が山本さんですか！」と言った。

「はい、そうです」と言うと、奥に行って1枚の紙を持って来て言った。

「これ、君出したか？」よく見ると、私が中支に出征している弟に出した八ガキだった。

郵便局で検閲して憲兵隊に回したものらしい。福田曹長は質問を始めた。

「宛名の人は誰か？」

「私の弟です」

「何の為に出したのか？」

「慰め励ます為です」

「この文章はどういう意味か？」などと質問責めにされた。

そしてキリストとは誰だ、再臨とは何だとか、新天地、希望、備えなどとはどういう意味だ、などと根掘り葉掘り聞き始めた。

そこで、八ガキに書いたペテロ第二、3:1～13の聖句の大要を述べると、

「よし、今日はこれで帰ってよい。明日朝8時に又来給え。今度は聖書を持って来給え」と言った。

そこで祈りと共に明朝出頭すると、昨日のように引き続き曹長は聖句についていろいろの質問をしたので、大要を述べたが、憲兵曹長の私へのねらいは日本の国体とキリスト教はとも合わぬ、ということに的を置いていたのである。

「僕はキリストに叱られるかも知れんが、どうもキリスト教は日本の国体に合わんと思うのだがのー」と頭を振った。

彼は京都の人らしかったが、関西でカトリック信者を検挙したことがあることを後で聞いた。我武者羅であっさりした人ようだったが、ビリビリと国体に合わない点のポイントを突いた。

もう一つの聖句、エペソ6:12にある「我らは血肉と戦うにあらず、政治、権威、この世の暗黒を司る者、天の處にある悪の霊との戦いである」の聖句への質問をされた。

その大要は説明したが、彼の目的は検挙の材料にするものを捜すものであったから、かえって説明しない方が良かったのである。

次に神という意味について、神とは誰か、キリスト教の神とは何か、どういう神か、と詰問し追い詰めて来た。

私は危機に追い込まれているのを感じていたので、最初それには返事しなかった。「豚に真珠」と同じだと思っていた。然しあまりにしつこく詰問し、正すので、はっきり言うことに私は決めた。

私は、キリストは万物の主、創造主、救い主で、唯一の神、万人はその恩恵に浴していることを語った。

「キリストが天地創造主の神なら、世界の国々と王達、日本の皇室の上に支配していると言うのか？」

「そうです」と私は言わなければならなかった。

「それでは、キリストは天皇陛下や満州国皇帝閣下やルーズベルトの上に支配していると言うのか？」

「そうです」

「それでは天皇陛下や皇祖、天照大神はどうなるのか？」と迫って来たので、私は、

「あなたはどう思いますか」と切り替えした。

彼は怒り気味に、

「僕は君に聞いているのだよ」と言った。又、

「君は『天皇は神聖にして、犯すべからず』との憲法3条を知っているか？」と彼は言った。

「はい、知っています」というと、憲兵の顔に怒りの表情が現れて来た。そして、

「君は日本人か？」と問題はいよいよ天皇を神とするか、キリストを神とするかに絞られて来た。私は、

「良心にそむくことはできません」と言って涙を流した。彼は言った。

「良心にそむかなくてもよい」そして、ペンをおいて考え込むように、

「僕はどうも元々からキリスト教は日本の国体に合わぬ。どうも一致しないと思うのだがのー……」と言った。

私はキリスト教に立ち、彼は天皇教に洗脳されている国粋党らしかった。だから相合うはずがなかった。彼は言った。

「キリストが世界の唯一の神なら、日本人は日本が勝つように祈り、アメリカ人はアメリカが勝つように祈ると、キリストの神は困らんかあ？」

私は、「勝負は、神の御手の内にある人ではないが、『義は国を高くし、罪は民を辱める』と書いてある」と述べ、すべては神の御摂理の中にあると言った。

世界の歴史を見ると、正しい時の国は栄え、正しくない国は滅びたと言うと、では君のことも神の御摂理か？と言いついて来た。

私は国粋主義とキリスト主義者の衝突にならないように努めたが、治安維持法の前には言論は無駄だったので、必要以上言わぬことにした。

中略…

家宅捜査

私が自宅に帰って3日後、朝突然、山本君居ますか、と玄関に福田曹長と二人の部下が立った。

一寸家を見せて呉れないかと狭い家に上がり込み、書斎の本、ノート、日記の大部分を集めてオート三輪に運んだ。そしてもっとないかと言いつつながらジロジロあちこち見回し、一寸これらを見せて呉れんか、借りて行くと言って持ち去った。

その後、9月23日頃再び憲兵隊に呼び出され、押収した本に基づいて徹底的思想の取り調べ、追及を5日間にわたってされたのである。

聖書、教課、証の書、日記、聖書教理の本などを調べ上げ、要所要所に赤紙を挟み、そこを開いては厳しい質問を浴びせられた。厳しく追及された治安維持法によって、私を有罪者として起訴する為のものだった。

起訴内容はだいたい次のような概要だった。

- ① 聖書、証の書を信じていること。
- ② キリストを唯一、至上の神とし、我が国体を無視していること。
- ③ 天皇の神聖を犯し、皇室神社への不敬のこと。
- ④ 日本の憲法よりも、キリストの言戒を至上位に置いていること。
- ⑤ キリスト再臨思想と終末思想を持っていること。
- ⑥ 非戦闘思想を持っていること。

中略……

パラオ法院の公判

1943年12月20日、突然パラオ法院より一枚のハガキが届いた。

それは来る12月27日午前10時、公判を開廷するので9時までに出席せられたし、という指令状だった。

さあ、いよいよ来るべき日が来た。私は先づ祈りつつしかと心を定め、主の御導きを求めつつその日を待ち、一切を主に委ねて定時までに出頭した。

中略……

いづれにしても、この時の国策と治安維持法とに私は調和しなかったので、私の件は有罪は覚悟の上だったし、国のことも思うが聖書と証の書に立った上で、国が駄目だと言うのなら先づ神の言葉を第一とする外ないと思った。

そこで判事は、「では、被告に質問をするから正直に答えてもらいたい」と言って、私の思想を確認する為に、既に用意してあった次の様な質問をして来た。

「被告は聖書を信ずるか？」

「はい、そうです」

「被告は証の書を信ずるか？」

「はい、そうです」

「被告はキリストが天地宇宙万物の創造主なる神にして、支配者なる唯一の神たることを信ずるか？」

「はい、そうです」

「被告はキリストの生涯とその再臨による永遠の王国、新天地の出現を信ずるか？」

「はい、そうです」

「被告は戦争を嫌う、非戦平和愛好者か？」

「はい、そうです」

この約五つの質問への答えは難しいものではなかった。前の時のように、バプテスマの時の信仰告白と同じであって、只その時バプテスマをしなかっただけのことである。

そしてこれはますます私の心に平安を与えるものであって、国家に対してはますます非国民、国賊、重罪犯人として定めるものであった。

この告白をした時、特別な平安と喜びが心にみなぎるのを実感し、恐れも不安も更になくなり、主イエス様が臨在して下さることを実感した。有り難さで一杯になった。

ところが判事の遺責の中に次の様なことがあり、それは学生時代の日記に関してのことであったが一私は自分の不注意を悔いた。

それは、「被告は日本人でありながら、永年のキリスト教の感化によって我が国体を忘れ、陛下の尊厳を無視してよいのか？ 特に宗教家としてどう思うのか？」とジーンと両瞳を大きく開いて集中させ、私の顔を七秒間位見入って来た。

そして、「次に、被告は宣教師に敬語を用いながら、陛下の尊厳を無視し、被告の日記に陛下のことを『彼』と書いているのは何事か！ 宣教師こそ、それこそ『彼』だ！」と又睨み付けられた。

これは私の不覚であった。聖書は神様でさえ「彼は」と書かれている。この習慣が国の怒りを買ってしまった。

「被告は日本の兵卒は天皇陛下万歳と言って死んで行く。その忠誠心を捨てて、キリストの兵卒として真理のためにはかくありたいものだ、と日記に書いている。これは非常に御不敬だ！」と言った。

中略……

続いて検事は大声を張り上げて、論告、求刑を叫んで言った。

「この故に、被告に我が国体について一年、天皇陛下の神聖、皇室の尊厳について一年、国策と戦時局について一年、それぞれ考えてもらい度い。ここに合計三年の懲役を求刑するものである！」

「法廷に暫くの沈黙の時が流れた。

「懲役三年」、それを聞かされた私は最初、成程三年の問題に対して三年考えよ……ということかと受け止めたが、次の瞬間ハッとした。

「何だ！ たった三年！ たった三年……！ 安いもんだな……」

自分も山の中に追いやられるか、自分の信仰を棄てて国体に合わせない限り殺されるかも……と心が走っていた時、たった三年と言われたのである。それを聞いて気が抜けるどころか、神様の御救いに心は感謝で一杯になった。殺されなくてもよいのだ。三年位何で

もない。感謝で気が軽くなった。

中略……

判決

先ず森本判事が口を切って発言した。

「被告山本精一、不敬罪についての判決申し渡しの開廷をする」続いて、「不敬罪については最高は五年であるが、情状酌量（じょうじょうしゃくりょう）（諸事情を考慮して、刑罰を軽くすること）の上、被告に対し懲役二年の判決の申し渡しをする。服役の日は追って通知する。下がってよろしい」と言った。

そして三人の判官は直ちに退場した。

「二年！」

思いがけない判決であった。……

共謀罪-テロ等準備罪 - 反テロ法案は、終局的にどこに向かっていくのだろうか？

聖書の預言は何と言っているか？

いろんな陰謀論が世にあふれている。1ドル紙幣に「新世界秩序」とラテン語が書かれているのは有名である。アンカー誌では過去に何回か世界統一政府の黒幕は何者かということは書いた。龍-異教ローマから「力と位と大いなる権威」を与えられた「ローマ法王教」である。

ダニエル書も2章、3章、7章、8～12章までの4つの預言を文脈から解釈すると明々白々である。

黙示録 13:3 に「致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い」とある。そして、全世界の人々に「獣とその像とその刻印」を強要するのは、小羊のような二つの角を持った獣、すなわち、プロテスタント・アメリカである。

E. G. ホワイトから引用しよう：

「米国の主要な教会が、その共通の教理において合同し、国家を動かして教会の法令を施行させ、教会の制度を支持させるようになるその時に、プロテスタント・アメリカは、ローマ法王制の像を造り、その必然の結果として、反対者たちに法律上の刑罰を加えることになるのである」大争闘下 165。

「プロテスタント教会は大いなる暗黒の中にある。そうでなければ、彼らは時のしるしを見分けるはずである。ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行ったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている」大争闘下 321, 322。

その目的を達成する精鋭部隊は、イエズス会である。「彼らの目的とするところは、富と権力の獲得であり、プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興すること」である。大争闘上 294。

「プロテスタントは法王制によけいな手出しをし、後援してきた。彼らは、法王教徒自身が見て驚き、理解しかねるような妥協と譲歩をしてきた。人々は法王制の真の性格、またこの教会が支配権を得た時心配される危険に対して目を閉じている。政治的また宗教的自由に対するこの最も危険な敵の進出に反対するように、人々は目覚める必要がある」大争闘下 322。

アメリカは憲法改正の方向に動いている。良心の自由、信教の自由の弾圧が近づいている。運命共同体である日本も憲法改正に動いている。「各時代の争闘 35 章」、「最終時代の諸事件」を綿密に調べようではないか。さもなくば、戦時中のように治安維持法の弾圧に恐怖と不安で自分の良心を売ってしまうことになるであろう。

ターゲットは、「神の戒めを守り、イエスの信仰を持つ民」である。黙示録 12:17、14:12。多くの SDA が信仰を捨て、反対の側に加わり、最も苦い敵に回ると言われている。多くの輝かしい星たちも暗黒に追いやられると預言者は言っている。

ペテロの信仰告白は素晴らしかった。だが「決してあなたを知らないと言いません、見捨てません、つまずきません、あなたのために死ぬ覚悟です」は脆くも大試練で崩れた。しかし、主の慈愛にあふれた眼差しに触れたペテロは真実な悔い改めをした。それは主を三度も否定するという、隠れた罪を、ゲッセマネの園で「せき止められし川の水のついゆるごとく」涙を流して悔い改めた。「天が人に与えることのできるすべての賜物の中で、キリストと共にその苦難にあずかることは、最も重い信任であり、最高の荣誉である」(1 希望 282) ことを知り、逆さの十字架の殉教死を選んだと言われている。ああ、シモン・ペテロはどれほど主を愛したことが！

「圧倒的驚くべき事件に備えよう」という説教の例話：

マーク・フィンレー牧師

1969 年に米ミシシッピ州を襲った巨大なハリケーン・カミール、その風速は 90 メートルだった。メキシコ湾から、ミシシッピのパス・クリスチャンという街に向っていた。海岸からおよそ



200 フィート（約 61 メートル）くらい離れたアパートで、若い人々のグループが休暇でハリケーンパーティーを開いていた。警察官がやってきて、ハリケーンが接近しているので、すぐ避難するよう警告した。青年たちは、酒に酔いしれていたので警官に「俺たちが避難しなければ、俺たちを逮捕するというのか？」と言い返した。彼らは米国民としての自由を奪われることなど、もってのほかだとも言わんばかり。

その晩、10 時 15 分に風速 90 メートル、高波 8 メートルの強大なハリケーンが襲ってきた。周辺のアパートは全壊。20 人の青年たちは命を失ったのだ。

セブンスデー・アドベンチストの教会と我々の神学者たちを大嵐が襲おうとしている。酒に酔っているのではない。が、保守的になり、神学的、学問的高慢の酒に酔っていて、膝を突き合わせて、聖書のみで聖書を解釈することを拒んでいるのだ」。 <http://ayin.dk/sons-of-robbers/>

「あらしが迫って来る時、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般向けの側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答える時に、これらの背教者たちは、サタンのもっと強力な手先となって、彼らの中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる」。大争闘下 378

ネルソンの貢献 - 日本国憲法

金城重博

ここで、非常に驚くべき情報があったので読者に紹介しよう：

第二次世界大戦が終わり、**新日本憲法第 20 条に「信教の自由」**が組み込まれたのには、実はセブンスデー・アドベンチスト (SDA) の A.N. ネルソン先生の働きがあったことを知って、私は驚いた。私は高校一年生の時に、日本三育学院でバプテスマを受けた。例年の 11 月の祈祷週るとき、ネルソン先生の祈祷週説教に感動して決心したからであった。彼が流暢な日本語で話していたことは、忘れることができない。また、カリフォルニアのロマリンドにいたとき、日系婦人たちに聖書研究を頼まれて行ってみると、なんとネルソン先生も来ておられた。そこで私の日本語の間違いを指摘して下さいたことも記憶に残っている。

A.N. ネルソン先生は、戦前、SDA 日本連合部会の総理であり、日本三育学院の院長でもあった。日本のお寺に関する PhD 研究をワシントン大学に登録し、宣教の傍ら研究を続け、1938 年には、ワシントン大学院から日本の宗教学で博士号を取得した。「ネルソンの漢英辞典」は今も愛用されている。フィリピンの明治学院大学機関リポジトリ <http://repository.meijigakuin.ac.jp/> に中井純子氏の論文があった。33 頁もあるので割愛しなければならない。

「戦いを終えて」— 宣教師 Andrew N. Nelson の生涯と働き— より抜粋

日本の SDA 教会も、政府の徹底的な弾圧を受けた。

1943 年 9 月 20 日の早朝、北海道からパラオ諸島まで、日本の全 SDA 教会の牧師、主要な教役者、編集者、主な長老、43 人が一斉検挙、投獄され、4 人の犠牲者を出

した。日本三育学院は、閉鎖、接管、教団の出版機関、福音社は即時活動中止、医療機関の東京衛生病院も、日本医療営団に強制委譲された。SDA 教会は、キリストの再臨を含む教理そのものが問題とされ、唯一神である神を礼拝し、天皇陛下を礼拝の対象とはせず、従って宮城遷拝をせず、第七日の安息日には勤労奉仕をしないために、反社会的と見なされた。教会の全財産は没収、売却され、再臨運動は壊滅的な打撃を受けた。

連合国軍最高司令官 (SCAP) 総司令部 (GHQ) 民間情報教育局 (CIE) 宗教調査アナリストとして



1945 年 9 月、敗戦後の日本に、アンドリュー・ネルソンは SCAP/GHQ の軍属 (中佐級の民間人) として降り立った。連合国軍最高司令官マッカーサー将軍は、統治に当たる日本政府との交渉を控えて、優れた通訳官を必要とした。Intelligence Office から選ばれた人材の中に、アンドリュー・ネルソンと、宣教師仲間、後に教育調査アナリストとなる フランシス・ミラード (Francis Millard 後に SDA 日本連合部会総理)、それにリチャード・ネルソンがいた。終戦後も引き続き軍服をつけることへの抵抗感があったが、皆、極東へ戻りたい気持ちのほうが強かったという。

中略……

占領政府の宗教政策は、基本的にポツダム宣言に拠っており、ポツダム宣言には信教の自由の確立が含まれていた。宗教に関して占領の主要な目標は次の 3

点であった。

- 1) 信教の自由の奨励と確立
- 2) 政教分離
- 3) 宗教の教理、実践、儀礼、儀式、祭典に見られる軍国主義や超国家主義の禁止。

アンドリュー・ネルソンは当初は、枢機の通訳官であったが、後に、SCAP・総司令部 (GHQ) 民間情報教育局 (CIE) の宗教調査アナリストとなる。

宗教課スタッフとしてのネルソンの任務は、第一に、マッカーサーの指令の文面作成者であるウィリアム・バンス

(William K. Bunce) 宗教課長を補佐し、「信教の自由」に関する指令を起草することであり、第二には、戦時中に宗教を理由として日本国政府より迫害を受けた宗教団体の調査を実施することであった。「彼らが作成した文書は、国家神道を廃止し、日本における宗教弾圧を終息させることになるのであった…信教の自由に関してアンドリュー・ネルソンの書いた条項は、新日本国憲法に組み入れられた」とネルソンの伝記記者は記している (AnOrderedLife89)。



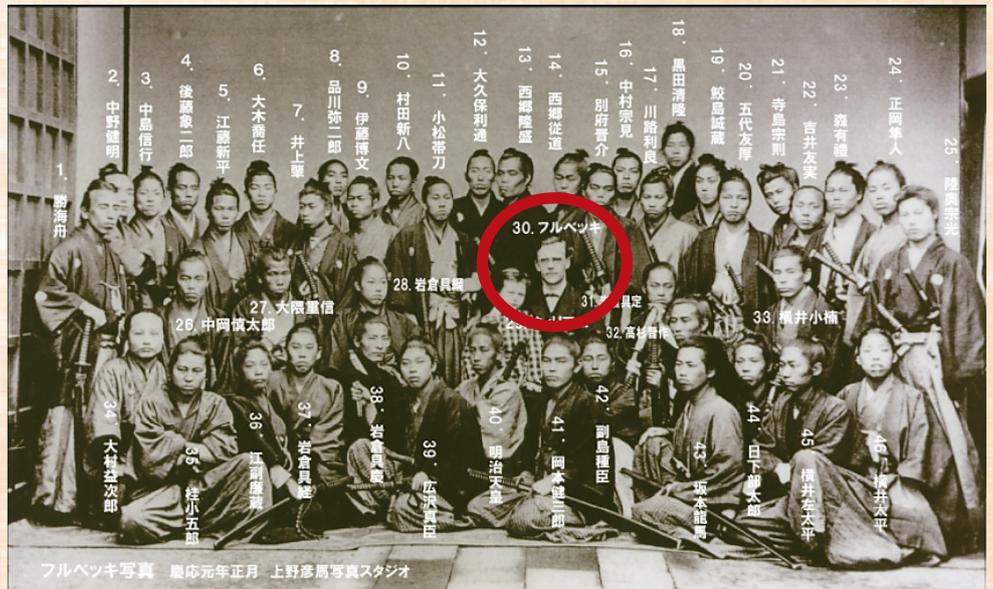
中略……

この事実は、「信教の自由に関してアンドリュー・ネルソンの書いた条項は、新日本国憲法に組み入れられた」というネルソンの伝記記者の言葉の信憑性を窺わせる。ネルソンがGHQを離れるのは、1946年5月と見られ、ネルソンの書いた草案は、1946年5月13日CIEの起草した指令に含まれていると考えられる。日本国憲法の制定は、1946年11月3日であり、第20条の冒頭は次の言葉である。

「信教の自由は、何人に対してもこれを保障する。」

中略……

確かに、明治初期と戦後の復興期には、この面で、並行現象が見られるようである。明治初期には、「信教の自由」を宣教師フルベッキが、明治新政府のお雇い外国人顧問として、「ブリーフスケッチ」に書いている。当時の日本には、「Liberty(自由)という語の訳語がない」と本国のミッションに書き送っている。戦後初期の復興期には、占領政策の主要な目的として



「信教の自由」の確立が重視され、バンスと A.N. ネルソン が「信教の自由」に関して、用意、作成した条項が新憲法に組み込まれた。明治期には、天皇にご進講という形で、フルベッキが、内村鑑三が、山室軍平が、聖書研究をしている。戦後の占領期には、皇太子などが内村鑑三から聖書研究を受けることを、天皇が許可されたという。

※注：①明治初期のフルベッキの日本に与えた影響は知られている。しかし、戦後の復興期にSDAのA.N. ネルソン博士の影響力についてはほとんど知られていない。

中略……

ネルソンが、宗教弾圧を受けた日本セブンスデー・アドベンチスト教会の戦前の最高責任者であったことは、SDA教会のみならず、宗教調査の仕事一般に大きなメリットであったのではないだろうか。「信教の自由」は、「宗教を理由とする迫害」の対極に位置する。後者の実体験は、「信教の自由」の意味を深く悟らせてくれたに違いない。

フィリピンにおける B、C 級戦犯への監獄伝道

1947年1月からA.N. ネルソンの働きの舞台は、マニラに移る。戦禍で荒廃したマニラでは、5年間占領日本軍の本部として使われ、荒れるに任せた Phillipine Union College (PUC) の学長としてその復興に携わった。フィリピンは1946年7月に米国から独立し、1947年8月1日には、フィリピンの軍事法廷で、日本のB、C級戦犯の裁判を開始した。New Bilibid Prison (NBP) ニュービリビッド刑務所に収監された戦犯の慰問に誘われたネルソンは、日本人戦犯の惨状を目の当たりにして、本格的な監獄伝道を開始する。毎週土曜日の午後、PUCの米・比人教職員

と学生を連れ、食料品や新鮮な果物を差し入れ、監獄内で流暢な日本語で多くの日本人のために聖書研究会を行った。フィリピンの監獄の戦犯死刑囚は、自分の犯した過去の罪過の一切を背負って、キリストが十字架上の死を遂げられたゆえに、自分の罪が赦され、自分が受け入れられていることを知り、どんなに心底からの慰めを与えられたことであろうか。福音の使者の果たした役割は大きい。この聖書研究会には、三十数名が参加していた。

当時、フィリピン人一般の日本人に対する憎悪は激しかった。1980年代に筆者がマニラを訪れた時、あるフィリピン人牧師が教えてくれた。「あそこに海に突き出ている岩があるでしょう。あの岩陰の洞穴に、日本兵は鉄柵を設け、フィリピン人を投げ入れ、潮が満ちると、洞穴の中の人溺死してしまうのにまかせ、潮が引くと、鉄柵を開け、溺死体を海に流したのです」と。こんな野蛮な暴虐を繰り返した日本人をフィリピン人は恨んでいた。しかし、ネルソンは野蛮ではない日本人も、キリスト者の日本人も知っていた。ために、激しい憎悪にさらされた日本人戦犯に対する神の許しと愛を伝える働きに、心あるフィリピン人キリスト者の中から共労者を見つけることが出来たのである。その結果、1949年10月29日に、19人がPUCキャンパス内のSDA教会で、かつて日本軍人の拷問を受けた人を含むフィリピン人キリスト者の祝福のなか、バプテスマを受けることができた。フィリピンの主要新聞は、このニュースを大きく報道し、これはフィリピン社会に影響を与えた。

フィリピン・キリスト教会連盟は、19人のうち13人を終身刑に減刑するようキリノ大統領に請願した。

中略……

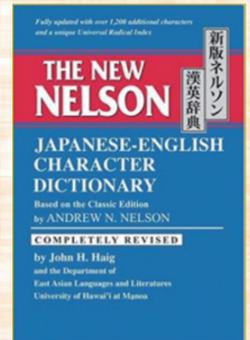
ネルソン自身も、松崎中佐の綿密な調査に基づいて、無実の罪に問われた戦犯の助命嘆願に心血を注いだ。まず、フィリピンの法廷に嘆願書をだしたが、これは1949年9月3日のManila Evening Newsの一面を飾るニュースとなった。さらにネルソンは、ロハス大統領の急逝を受けて、1948年4月に大統領に就任したエルピディオ・キリノ大統領にも、機会をとらえて直訴した。まず戦後の混乱したフィリピンで民主主義に基づく統治を開始したことを祝い、フィリピンが日本人戦犯に対して、キリスト教精神に基づき、寛大な措置をとれば、このアジア地域での唯一のキリスト国として、よい証をたてられるという議論を呈した。その上で、自分がバプテスマを受けた14人の無実を請け合った。しかし、フィリピンでの戦犯裁判における助命嘆願の効果は芳しくなく、ネルソンは、日本人戦犯14人の死刑に立ち会うことになった。夜明け前に、不気味な音をたてて降りる絞首刑台上っていき一人一人にネルソンは別れの言葉をかけた。「お休みなさい。明日、

またお目にかかりましょう。」

中略……

ネルソンの漢英辞典

ネルソンの漢英辞典はエドウィン・ライシャワー博士の出版の勧めにより産声をあげた。東京衛生病院に勤務していたリチャード・ネルソンは、外科医であったが、当時は医師が不足していたために、産婦人科や整形外科、内科も担当する「よろずや」だったと自分で言う。ライシャワー夫人も患者の一人だった。ある日、夫人に付き添って、ライシャワー博士も病院を訪れた。その時、A. N. ネルソンとの談話の中で、ライシャワーは漢字辞典を出版するよう強く勧めた。リチャードによると、それまでも、父親はいつも漢字カードを手にして漢字を学び、習得しようとしていたが、父の頭の中に、辞書の出版というアイデアが具体的に湧いたのは、その時だったという。



筆者がこの辞書について知ったのは、オックスフォード大学で日本語教育に従事していた時だった。1990年の赴任直後、ある中国学の教授の口を通して、『ネルソンの最新漢英辞典』が、スタンダードな漢字学習の辞典として、中国学や日本学を専攻する人の座右の書になっていることを知った。しかし、それが宣教師ネルソンの辞典であることを知ったのは、数年後の一人の学部生の指摘によった。ある授業の後で、その学生は言った。「先生、この辞書は、セブンスデー・アドベンチストの宣教師が編纂したと書いてありますが、ご存知でしたか。」

ネルソンの漢英辞典は、使い手にやさしい。実に役立つ効果的なアプローチをとっている。正式な部首索引でひくことができ、一つ一つの漢字に例が沢山設けてある。たとえば、[-]の項には、-を含む例や熟語が7ページにも亘り掲載され、1頁には平均100項目載っているから、総数で、[-]の字には、700弱の漢字や熟語が載っていることになる。非常に見やすく、使いやすい。その割には、熟語の数の多さに萎縮させないのである。

教育ビジョンの具現—ミンダナオ島の Mountain View College (MVC)

リチャードに「父上はどんな人でしたか」と質問すると、「Godlyな人」即ち「神を敬う」「信心深い」「神に献身した」人との答えが返ってきた。朝早く、書斎の机の引き出しに手をおき、膝まづいて祈っている姿をリチャードは日常的に目にしてきた。息子のリチャードは、父親のアンドリューが怒ったところを見た事が

ないという。また、人の悪口を聞いたことがないともいう。神を第一とし、神により頼み、神のみこころを行おうと常に神の導きを求める「神に献身した」人という意味で、「Godly」だったのだと思われる。

アンドリュー・ネルソンが実に多様な働きを次々にこなして、言葉の真の意味で「常人離れした」活躍を遂げたのには、一つには、この神の御心を求めるといふ信仰者としての姿勢があると思われる。神の意図に添うと思えば、それを遂行するという決断においては、いたずらに迷うことはない。アンドリューは、神への祈りを通して確信をえたことの実施にあたっては、組織的に対処した。来日初期に日常生活の指針として21か条の方針を自らたて、1953年には新たに人生の方針を立てている。

アンドリュー・ネルソンの生活は“OrderedLife”そのものであった。宣教師が過ごす野尻湖でも、毎日辞書の作成に没頭していたアンドリューは毎時間ごとに、5分間の休憩をとり、運動のために棧橋の端まで歩いていき、戻ってきたという。55分は集中して仕事をし、5分間は、運動のために歩いていた。

1950年にアンドリューはミンダナオのBukidnonへ行き、そこに自らの教育理念を実現するカレッジを設立する場所を見出す。海拔2000メートルの高所にあるその土地には、11の滝があり、その一つは、36メートルの高さで、水力発電に理想的だった。見渡せば、幾重にも連なる平らな地があり、水はきれいで、農業に向いていた。そこに1958年に、Mountain View Collegeを創立した。筆者がそこを訪れた1980年ごろは、そのカレッジはよく整備され、学生たちは小さな石を運び、水力発電で電気を起こし、薄暗くはあったが、電燈の下で、夕食を食べ、夜の学びをしていた。小型飛行機から見ると、カレッジの周囲には、フィリピンマホガニーのプランテーションが広がり、野生の蘭の生育する森がある。学生たちの眼は人なつこく、輝いていた。ある安息日の午後、或るグループの学生たちの案内で、ある滝壺に連れて行かれた。

そこで、ネルソンが、その地に、どのようにしてカレッジを建てたのかを、学生は話してくれた。それは「ある夜、日本にいたA.N.ネルソンが夢で、『フィリピンへ行きなさい。ミンダナオに行きなさい。Bukidnonへ行きなさい』という声を聞き、ある滝を見せられた。夢に従って、ミンダナオに行き、Bukidnonに来てみると、夢で見たのと同じ滝があった。それが今、私たちが見ているこの滝です」というのであった。「そして、ネルソン先生は、この場所にカレッジを立てたのだ」と。

この話を、筆者は長年半信半疑できいていた。事実なのか、それとも伝説なのかと。今回、思い切って、リチャードに尋ねると「私も聞いたことがあります」と、

アンドリューがリチャードに語った、実際に夢であった話であることを証言してくれた。とすると、このミンダナオの地に、ネルソンが実現しようとしていた教育の理念にかなうカレッジを建てるようにという意図は神から来たものであったということになる。筆者が訪ねた1980年代初頭には、少なくとも、カレッジ、及びその周りでは平和な、緑に囲まれる環境の中で、学生が勉学にも、労作教育にも励んでおり、安息日には、カレッジの周囲に100を越す数の集会所が開かれ、学生たちは徒歩で、あるいは、川を泳いで越えて行き、神の言を、ある所では、方言のために、3重、4重に通訳しながら、現地の言葉で伝えていた。牧師はカレッジに一人しかいなかった。

このミンダナオ島が、かつては日本軍とフィリピン軍の熾烈な戦闘の場であり、当時の日本軍の一部による残虐な行いが行われたことは、筆者は、最近になって知った。日本軍の兵士が、食料不足で餓死しそうになった時に、フィリピン人の捕虜を殺して、人肉を食したという。その責任者が、戦犯として裁かれたのだ。

それは、ネルソンの建てたMountain View Collegeを通して見えるミンダナオの風景からは、到底想像を絶する出来事であり、このカレッジの平和みなぎる雰囲気には、そのような過去があったことすら、一抹も感じさせない。ネルソンたちが、理想的な教育一即ち知的教育と労作教育とをバランスよく組み合わせ、霊的にも成長する場を与える環境を探し求めていた時に、Bukidnonへ案内したフィリピン人は、戦時中の日本軍のミンダナオ侵攻時に、高所にあり、他から隔離されているようなこの地に避難して無事に過ごしたのを思い出して、ここに案内したのだという。

日本軍とのあの血なまぐさい戦いの場であったからこそ、罪の無い人の血が暴虐により流された地であるからこそ、アンドリュー・ネルソンは、夢の中で、聞いたのではなかったか。「フィリピンへ行きなさい。ミンダナオに行きなさい。Bukidnonへ行きなさい」という神の声を。そして、その夢で見せられた滝を、この地で見出し、そこに神の言を学び、実践するための教育機関、Mountain View Collegeを建てたのではなかったか。

アンドリューがその夢でフィリピンへと導かれたのは、いつであったか、リチャードもはっきり覚えていないという。でも、それは、フィリピンへ来る前のことであったに違いないから、1946年にSCAP/GHQの仕事を引き継いだ前後ではなかったかと思われる。ネルソンがPUCの復興に召請されてフィリピンに到着した1947年初頭には、フィリピン軍事法廷でのBC級日本戦犯裁判が始まる半年前で、当初のアンドリューの計画にはなかった日本戦犯への監獄伝道を行うには絶妙なタイミングであった。

苦難の超え方

A. N. ネルソンの生涯と働きは、牧師、教育者、辞書編集者、連合国軍最高司令官総司令部、民間情報教育局、宗教調査アナリスト、日本戦犯の教誨師と実に多岐にわたった。

これだけ紆余曲折のある人生を経て、アンドリュー・ネルソンの内心には、ある時は葛藤や苦悶、それを超えるための人知れず多大な努力があったのではないだろうか。リチャードに尋ねてみた。ちょっと考える間をとって、彼は言った。「一本道じゃなかったでしょうか。」アンドリューは、いつも神への祈りと瞑想のうちに、神のみこころを求め、一筋に進んだのではなかったか。来日初期に決めた21条からなる生活の指針には、「11. 多くのことを短時間にこなすためには、効率的でなくてはならず、神経エネルギーを無駄遣いしてはならない。12. 他人に誤ったことをした時には最初の機会にそれを正し、その後は、過去は過去で、心配は、現在と未来の事柄にしなければならない」が含まれている。決断にそった実行には、この実際的な指針が役にたったのであろう。神に導きを求め、それを得たなら、一筋に進む、であるから、リチャードの「一本道」という表現があるのであろう。人生の各段階で実際になしえたことは地理的にも、心理的にも、分野においても多岐にわたった。しかし、その原点は、いつも同じ、「神への祈りの中で感得する神のみこころ」であったと思う。であるから、その原点は決してブレなかった。従って、アンドリューは、チャレンジにも翻弄されることはなかったのである。MVC 創立後に、マニラの PUC とミンダナオの MVC の両校の学長に就くよう推薦され、それを受けて休暇に発ったその留守に反対意見が起こり、この計画が流された。その時には、「背中を刺された」思いをしたアンドリューであったが、1953年にたてた生活方針に戻り、その苦悩を克服した。

1. バラエティーを求めよ。
2. 一言一行に誠実であれ。
3. 冷静さを常に保ち、苛立ってはいけない。
4. 今、それをしなさい。未来の時間はそれを進歩させるのに用いよ。
5. 最も短時間に事を片付けよ。
6. インスピレーションは、過去にではなく、現在と将来に求めよ。
7. 過去の事を忘れ、今に集中せよ。
8. 大胆さをもって事を実行せよ。
9. 良い事のみを行え。
10. 秘密にしておくと言った言葉は絶対にもらすな。
11. 決して落ち込むな。それは愚かしい。

結びにかえて

本研究で下記が明らかになった。

アンドリュー・ネルソンは、連合国軍最高司令官総司令部 (SCAP/GHQ) において、民間情報教育局 (CIE) 宗教課のスタッフとして、主に、下記の二つの働きに携わった。その第一は、ウィリアム K. バンス宗教課長を補佐して信教の自由に関する指令の文面作成に参画したこと。これは、既に、Andrew N. Nelson Story と副題のついているネルソンの伝記に記されている事であるが、今回、米国国立公文書館で見つかった CIE 作成と思われる SCAP から日本政府宛に出される指令 (Directives) の草案と見られる文面に、William K. Bunce の頭文字の署名のある変更事項の書き込みのある文書により、その記述の裏付けがなされた。

GHQ・CIE でのネルソンの仕事の第二は、民間情報教育局宗教課の宗教調査班 (Religion Research Unit) の責任者として、弾圧を受けた宗教団体のフィールド調査を実施したことである。これも NARA に保存された SCAP/GHQ の Religion Research Unit の Special Report に明らかである。セブンスデー・アドベンチスト教会に対する迫害の報告が 1946 年 2 月 16 日付けで、Subject: Persecution of the Seventh-Day Adventist Churches として提出されているが、この詳細に関しては、キリスト教史学第 69 集に掲載予定の拙稿を参照いただきたいと思う。

ネルソンは、戦時中に弾圧を受けて、4 人の犠牲者をだした日本 SDA 教会の宣教師であった。所属教会を通して被弾圧者経験のあるネルソンが、連合国軍最高司令官総司令部民間情報教育局宗教課の宗教調査班の責任者として、宗教調査に臨んだこと、更に信教の自由に関する指令の文面作成にバンス宗教課長を補佐して携わったことの意義は大きい。

フィリピンのニュービリビッド刑務所に収容された日本人戦犯になされたネルソンの監獄伝道により新生のバプテスマを受けた戦犯死刑囚の中に、市村勲元大尉がいたが、監獄にあって 950 首の短歌を作成したことが、市村昭子夫人提供のノートにより明らかになった。また、監獄においても作歌を志す市村を励ます武者小路実篤からの直筆の書簡も紹介された。更に NARA に保存された裁判記録の中に、戦時中の日本軍によるフィリピン民間人粛清の命令も見出された。

アンドリュー N. ネルソンは、戦前、戦時中、戦後の日本で、アメリカで、アジアで、様々な場面で、神に用いられる宣教師であった。どこにあっても、神の意図を求め、具体的に祈り、それを、即、実践する働きであったからこそ、神はさまざまな場面で、ネルソンを用いられたのだと思われる。

ジグソーパズルから学ぶ教訓

金城マーク N.D.



パズルをするのは楽しいですが、時間がなくて皆さんもなかなかしないと思います。2、3年前の正月休みに子供たちもみんな集まり、ジグソーパズルをやってみました。リサイクルショップで見つけた、仕上がると本当に動く時計のパズルです。777ピースのパズルです。大変でした。立体に仕上げるパズルで、木目の時計を写真に撮ったものでした。後ろ側はほとんど木目だけで、同じ色、同じ形のピースで作らないといけな

いのです。家族5人とヘンリー（オーストラリアの青年）の6人で、一気に半日で出来上がりました。

とても楽しかったのですが、パズルを作製することによって、いろんな霊的な教訓も得ることができました。三つの分野で教訓をあてはめたいと思います。

- 1、聖書研究する時に、パズルから学べる教訓。
- 2、健康回復のために、同じ原則を体のためにどのように当てはめることができるか。
- 3、「神の教会」に属する私たちにとって、どのような教訓をあてはめることができるか。

1、聖書研究する時に、パズルから学べる教訓

①易しいところから始める

パズルを始める時、ピースが真っすぐになっている



「外枠」「端っこ」を全部探し出し、当てはめていくのです。一番やりやすいところから始めていきます。それをやることによって、あとはやりやすくなるのですが、聖書研究をする時、それからどのような教訓を学べるでしょうか。

それは易しいところから始める。クリスチャンになって、いきなり難しいところから学ぶ必要はありません。最初にするのは誰でも分かるところからです。聖書では「ミルク」と言っています。肉ではなく、霊的な「乳（ミルク）」から始めましょう。

「今生れたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救に入るようになるためである」（1ペテロ2:2）。

例えば、皆さんよくご存じの聖句

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハネ3:16）。

神、愛、ひとり子、信仰、永遠の命、滅びという大きな枠組みがあります。

②枠組みの中に当てはめていく

もう一つは、パズルをやる時に「枠」を最初に作っていきませんが、「枠」の外に当てはまるピースはないですよ。全部「枠」内にはめなくてはなりません。これもパズルの作り方の原則です。聖書研究も同じで、一旦「枠」を——クリスチャンの土台として必要な一番簡単な教え——作ってやるならば、外枠、「枠」の外にピースをあてはめないことです。





③基準は律法と証

「ただ律法とあかしに求めよ。もし彼らがこの言葉に従って語らなければ、それは彼らのうちに光がないからである」(イザヤ書 8:20【欽定訳】)とあります。

律法一掟、神様のみ言葉、あかし—アドベンチスト教会のあかしは「証の書」があります。律法とあかしに沿っていなければ、光がないから学ぶ必要がないという聖句です。SDAとして最初に「**律法と証**」という枠組みがあります。それから外れたいろんな研究をする必要はないです。神様の原則が書いてある**靈感**の「聖書」と「証の書」の枠組みから外れているものならば、相手にする必要は一切ありません。

④組織的に—ピースを種類分けする

パズルの「**枠**」を作ったなら、中身を作って行かなくてはなりません。もう少しやりやすくするためには、似たような色など種類別に分けていきます。それをするによってやりやすくなっていきます。聖書研究をする時に、計画なしにあちこち読むのも悪いことではありませんが、本当に神様のみ言葉から祝福を受けたいと思うならば、なんらかの形をとった研究が必要です。分けたり、一つのテーマを決めて勉強するなどシステムを取り入れてやると、よりよく神様のみ言葉を理解できて、祝福が多くなります。

「彼はだれに知識を教えようとするのか。だれにおとずれを説きあかそうとするのか。乳をやめ、乳ぶさを離れた者にするのだろうか。それは教訓に教訓、教訓に教訓、規則に規則、規則に規則。ここにも少し、そこにも少し教えるのだ」(イザヤ書 28:9-10)。

⑤完成図を見ながらピースを探す—聖書語句辞典を用いる



枠組みができて、「乳(ミルク)」から次への段階に行きたい時には、あちこちから聖句を選んで、もっと深い聖書研究に取り組んでいきます。その時道具として使ってほしいものは、「聖書語句辞典(コンコルダンス)」です。このようなものを使って、テーマに沿って勉強したい時に、あちこちから神様のみ言葉の種類を集めて学んで行くと、祝福が深くなっていきます。パズルを作るのと同じです。

パズルを作る時、参考とする絵があり、それを見ながらパズルを作っていきます。これも、聖書研究をす

る時とても大事な原則です。英語では「Big Picture(全体像・長期的展望)」と言います。仕事などをしている時に、「何の目的でやっているか」ということを忘れないことです。あまりにも細かいことに集中しすぎて、大きな絵を忘れることがよくあります。聖書研究をする時に特にそうならないように、何のために聖書を研究しているか、何を求めて勉強しているのか、「Big Picture」—「全体像」を思い出しながら聖書研究をしなければなりません。

もちろん、聖書の創世記から黙示録まで、一番のテーマは「イエス・キリスト」、そして私たち罪人を救うための、「イエス・キリストの贖いの計画」です。そのような「大きな絵」を忘れないようにして下さい。聖書研究には細かい教えもあります。面白く深く研究できる箇所もあります。しかし、そればかりに集中して、大きなイエス様の救いの計画、イエス様の愛という大きなものを決して忘れないように気を付けないといけません。

「聖書の解説者は聖書自体である。聖句と聖句を比較してみなければならない。研究者は、聖句の言葉を全体の立場からながめ、それから部分的な関係を考えてみることを学ばなければならない。聖書の重要な中心テーマ、すなわち人類に対する神の初めの御目的、大争闘の始まりと救済の働きの起源について、知識を得なければならない」(教育 226)。

ある人たちは聖書の一部、細かい点に集中しすぎて極端なところまで行ってしまう場合がよくあります。そのようにならないように、必ず「大きな絵」—全体像を見ながら集中して勉強し、大きなテーマを忘れないようにして下さい。ホワイト夫人の著書「伝道」の中に、イエス・キリストがすべての中心なので、全ての説教の中でイエスを中心に入れなさいと書いてあります。

⑥無理矢理にピースを当てはめない—憶測を避ける



パズルを作る時のもう一つの原則は、**無理矢理にピースをはめたいところに、はめるのをさける**ことです。「もうちょっと強く押せばここに入るんじゃないかなあ」と思いながら、本当はここに入らないのに入れようとする傾向がありますが、そんなことするとパズルはちゃんと出来上がりますか？ はまらない場所に無理に入れようすると、絵がおかしくなって来ます。はまらないところに無理やりにはめようすることを止めないといけません。

「隠れた事はわれわれの神、主に属するものである。しかし表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し、われわれにこの律法のすべての言葉を行わせるのである」(申 29:29)。

「神のみ言葉の中に与えられている神に関する啓示は、わたしたちの研究のためにあるもので、これは理解しようと努力してよいものである。しかし、その限界を越えて、推測に走ってはならない。神の性質に関して、臆測に疲れはてるまで最高度に知能を労したところで、このような努力はむだである」(ミニストリー 406)。

「彼らにとって唯一の安全な道は、すでに神から受けた光をたいせつにし、神の約束を堅く信じ、聖書を探りつづけ、さらにそれ以上の光が与えられるのを忍耐して待ち、見守ることであった」(大争闘下 118)。

「わたしたちの最初の先祖は、神が与えられなかった知識を得ようとして罪に陥った。その知識を求めようとして、さらに価値あるものをことごとく失ったのである」(ミニストリー 403)。

聖書研究をする時も同じです。聖書には「粹」になって行く理解しやすい聖句がいっぱいあります。しかし、ところどころに難しい聖句もあります。説明し難い聖句というのがあります。特にパウロの書き物で難しいものがあるとペテロ自身が言っています(1ペテロ 3:16)。確かに聖書の中に難しい聖句がある時に、自分勝手に解釈をして無理矢理に自分の考えに当てはめようとしなないことです。

「聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである」(2ペテロ 1:20,21)。

理解しにくくて、違った場所では矛盾しているのではと思われる聖句が、他の勉強をしている時に、「ここにぴったりはまるどころがあるじゃないか」という時があります。

だから必ずしも理解できない聖句を、今理解しないといけないと思いつながら、無理矢理に自分の考えに当てはめようとしなないようにして下さい。神様がその意味を示されるまで忍耐強く待つ、そして分かる聖句を集めながら聖書を研究しているうちに、難しいものもはまるように、神様は示して下さい。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよ

りも高い」(イザヤ 55:8-9)。

聖書は神様が書かれたものですから、私たちの考えや思いをはるかに超えているものなのです。聖書は私たちのために書かれたものでありますが、やはり時々理解しにくい部分があります。それは早合点して自分勝手に解釈するのではなく、研究しへりくだって神様に求めているうちに、ピッタリと難しい聖句もはまり、理解できる時が来ますので、無理矢理に説明をしようとする必要は全然ありません。

⑦一つも不要なピースはない—重要



パズルの中で不必要なピースというのはありません。すべて、一つ一つのピースは大切なものです。神様が書かれたすべてのみ言葉の中には、必ず特別な私

たちに必要なメッセージがあります。

「イエスは答えて言われた、『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』(マタイ 4:4)。

神様の口から出る一つ一つの言葉、英語では「by every word that proceedeth out of the mouth of God(the Lord)」。神様から出る言葉はひとつも矛盾したものは無いということです。神様から与えられた聖書の中には、不必要な言葉というのはひとつもありません。「どうしてこのような聖句がこの聖書に入っているのかなあ」と思われるような話や聖句が時々あります。特に旧約聖書での残酷な話や汚い話など、「どうして清い聖書にこんな話が入っているんだろう」と思うようなものもあります。しかし、神様は大切な教訓を私たちに教えようとなさっているのです。不必要な神のみ言葉というのはありません。すべて必要であり、最後に完璧なパズルを作りたいならば、必ずそれがピッタリはまるどころがあるはずで

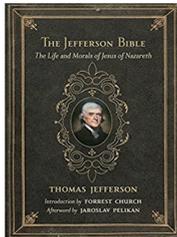
聖書研究の中で、「これは神様が本当に書いたのかなあ、これは人間の思いで付け加えられたものではないだろうか」と思う人たちがいるかと思えます。(※**実際、4世紀に、また19世紀半ばに聖書の写本からたくさん**の聖書が翻訳されてきましたが、**改ざん**されているのは**事実**で、それが**混乱**をもたらしているのも**事実**ですが、**聖書全体から、文脈から、また聖句と聖句を比較研究**していくときに、**真理の全体系**を見ることができるようになります。)

アメリカの元大統領トマス・ジェファソンは一応神様を信じてはいたのですが、「超自然なものはない。神様はおられるが私たちの生活には





何も介入されない」という信仰でした。聖書を読む時には、イエス様はいい人で、いいことを教え、立派な方であったと認めるけれども、奇跡などは一切信じませんでした。



ジェファーソンは大統領を引退した後、一生懸命聖書を勉強して彼が残した聖書があるのですが、彼が生きている時には、誰にも見せませんでした。「これは誰にも見せる必要はない」と言っていました。亡くなった後誰かがそれを見つけて、現在どこかで展示されています。二つか三つの聖書を使い「これは人間が作り出したものだ」と言って、奇跡的な出来事すべてを切り抜いているのです。イエス様は歴史的にいた人で、立派な人だったが、弟子たちが後で奇跡の話などを付け加えたりしたもので、そのようなものは信じないと、自分の聖書から切り取りました。それを誰かがまとめて「Jefferson Bible」(ジェファーソン聖書)を作り上げました。実際にジェファーソンが気に入らない「これは神様の本当のみ言葉じゃない」と思った部分を切り取っていきました。



「わたしがあなたがたに命じる言葉に付け加えてはならない。また減らしてはならない。わたしが命じるあなたがたの神、主の命令を守ることのできるためである」(申命記 4:2)。

「この書の預言の言葉を聞くすべての人々に対して、わたしは警告する。もしこれに書き加える者があれば、神はその人に、この書に書かれている災害を加えられる。また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、とり除かれる。」(黙示録 22: 18、19)。

私たちはそういうふう、自分の考えで「これはいい、これはいい」と判断する力は決してありません。よくホワイト夫人の書物もそのように考えようとする人たちがいます。「この部分は聖霊に見せられた部分だろう、でもここは違う。ホワイト夫人は良い人ではあったけれど、必ずしも書かれたものは全部聖霊に導かれて書かれたものではない。人間ホワイト夫人

が書いた部分だからこれは信じなくていい」と、ジェファーソンがやったように、証の書も、自分の気に入るところだけを受け入れて、自分が信じない部分は切り取ってしまう。そういう聖書や証の書の読み方をすると、最後のパズルはどうなりますか？ 穴だらけでイエス様の絵を最後に見ることはできません。すべてのパズルのピースは大切に、それを捨てることができないように、すべて神様から与えられた祝福として受けて下さい。



2. 健康改革のために、パズルから学べる教訓

パズルを作る時の原則がありますが、それを健康改革に対してどうやってあてはめることができるでしょうか？ これは自分で考えたことなので「どうかなあ？」と思うところもあるかも知れませんが、私がこれを作る時に祝福を得ましたので、皆さんに紹介したいと思います。

①基本から始めよ

健康原則を学ぶ時にもやはり、「枠組み」—簡単に理解できる部分で、土台となる部分から始めないといけません。健康の原則の土台となる部分は、8つの自然療法の原則、「NEWSTART ニュースタート」プログラムです。それが健康の土台となる原則です。薬草をいっぱい摂ったり飲んだり、それから始めることは勧めません。本当に健康になりたい人たちは、土台から始めないといけません。それは「8つの健康の原則」から始めていくことです。

②枠組みの中に留まる

「枠組み」をしっかりしたうえで、「枠組み」から外れているものは、やる必要はありません。

ホワイト夫人は「癒しの働きにいろんな方法がある。しかし天に認められるのは一つしかない。それはこの『8つの自然療法』だけであります」と書き遺しています。「自然療法」といっても、いろんな療法があります。薬草もそうですが、電気を使ったり、針灸などあれやこれやの療法、様々な療法が世の中にはあふれています。

ケロッグ博士が活躍している時のこと、バトルクリーク・サニタリウムに若い医者たちが入って来た時、「バトルクリーク・サニタリウムは一般アメリカの病院より5年から10年先に進んでいる。どうしてそれを保つことができるか、秘訣を知りたいか？」と若い医者たちに話しました。若い医者たちは「お願いしま

す。どうやってそれをやるのか教えて下さい」と言うと、ケログ博士はいろんな科学の中で発明されて、新しい方法が発表される時、彼は必ずホワイト夫人の書かれている原則の中に当てはめることができるだろうか、原則に従っている療法だろうかと最初に考えたそうです。

もし8つの原則の中に当てはめることができるならば、それを一生懸命追及して取り入れようとする。しかし、少しでも8つの原則からはみ出ている療法であるならば、いっさい取り扱わないで、次のものを研究していく。それをやることによって、その当時の一般アメリカの医者よりも5年から10年進んでいた。見分ける力が証の書を通して与えられたのです。私たちもいろんな療法がある中で、神様が与えられている「枠組み」の中に入るだろうかと考えて、神様から教えてもらって8つの原則の中に当てはまる治療法を追求していきましょう。

③ピースを分別する

パズルをやる中で、いろんな種類を集めようとなりましたね。健康の原則に対してどのようにするのがですが、ある人たちは病気になると、神様から与えられた知能を使わずに、いろんな人からあれこれ試すように言われて、何でもかんでも取り入れてやる人たちがいます。それも危ないことです。神様は知性を与えられたので、どういう病気になった場合に何をやるべきか、原因を取り除いて身体を回復するためにどういうものが必要かを考えながらやって行かないといけません。

「改善への唯一の望みは、人々を正しい原則に教育することである。薬に回復力があるのでなく、自然のうちにあることを、医者は人々に教えるべきである。病気とは、健康の法則を犯した結果、起った状態から、身体を解放しようとする自然の営みである」(ミニストリー・オブ・ヒーリング97)。

病気の原因を検査するいろんな医療機器がありますが、真の原因である生活習慣を変えるように、取り除くように教育する医者は、多くはいないようです。例えば、動脈硬化、心臓病、癌の原因はコレステロールとは言っても、原因は「肉食だから、肉食をやめなさい」とはっきりいう医者は少ないようです。

「病気になった時に治療の方法を知るよりも、病気を予防する方がはるかに良いのである」(ミニストリー・オブ・ヒーリング98)。

④組織的、知的な治療も必要

システムが必要です。バタバタとしてやるのではなく、パズルをやる時のようにシステムがあり、色が同じようなものなどに分けていたりしてよりうまくパ

ズルを仕上げます。健康の原則を扱う時も、頭を使って、どうしてこの療法をやるのか考えながらやって行かなくてはなりません。

⑤「完成図」を絶えず見る

健康の原則を扱う時も、「大きな絵」を見ておくべきです。例えばある人たちは、食事療法で健康になるためには「これだけだ!」という人たちがいます。酸性とアルカリ性のバランスをよく摂りましょうなどと言って、すべての食べ物のことに細かく細かく、そればかり考えてやっている人たちがいます。ある程度はそれは本当であり良いことです。しかし、「大きな絵」である健康の原則を失っている場合があります。一つのものに集中しすぎて、大きな他の原則を忘れてしまう。そのようにならないように、パズルを作る時に必ず「大きな絵」を見ながら作るように、健康の原則を教える時にも、一つのものにこだわらないで全体のものを見ながら自分に対しても他の人に対しても適当な療法を選んでいくことは、とても大切なことです。

⑥極端を避けよ

「健康改革者は他のすべての人々に増して、注意深く極端を避けなければならない」(食事と食物に関する勧告85)。

健康の原則を教える人たちは特に極端に走らないように気を付けなければなりません。

⑦完成図は、「何事をするにも神の栄光のためである」1コリント10:31

私たちの健康の原則でも、「大きな絵」つまり大きな目的は、2、3年もっと長生きするためではありません。それは「神にすべての栄光を帰せる」ように、私たちは健康の原則を教え、行っています。「自分がもっと長生きしたいから」ではなくて、「神に栄光を帰す」ためにやっている大きな目的を見失わないようにしましょう。

⑧無理矢理に押し込んではいらない

無理やりにパズルのピースを入れないように。私たち一人一人みんな違う身体の構造を与えられています。我々はみな異なった体を持っています。一人の人に良い治療は他の人には合わないかもしれない。私に適切な治療法であったとしても、あなたに同じ治療法は害を及ぼす場合があります。だから、私に良かったからあの人にも「やりなさい」と言うことはできません。一人一人ピタッとはまる治療法があります。「私にはまったものがあなたもはまるはずだ」と無理やりにやってはだめです。みんな一人一人違いますので、もちろんお互いに教え合いながら、学びあいながらやっていくことはとても良いことです、





必ずしもみんな同じようにすれば癒されるというわけではありません。各人の健康の状態を考慮しよう。

ホワイト夫人自身も豆類を食べるとお腹が痛くなって死にそうになったそうです。「わたしには豆は死に至る食べ物だ」と。しかし、他の人にはとても良い食べ物です。だからパズルのピースを無理やりに当てはめようとしな、とても大事な健康の原則でもあります。

⑨ 8つの自然療法すべてが重要

全てのピースは大切です。健康の原則の中で8つの大きな原則があります。この8つの中で、4～5、もしかしたら6つは割と得意で簡単にできて「他のものはあまり好きではないしできない、それはもういらない」と考えてはいけません。8つの原則はすべて行っていないと、これはお互いに支え合っている原則ですから、一つでも欠けたら健康に害を及ぼしてきます。強い点であるならば神様に感謝しつつ行い、弱い点であるならば特別に聖霊に力を求めてそれを強くするように努力しないといけません。だから一つの部分でも欠けたら、健康のパズルを作ることができません。好きな部分だけ取って、あまり気にいらぬ部分は行なわない、そのようにやるとやはり、健康を保つことはできません。神の健康のプログラムは、総括的で美しいものです。



3、「神の教会」に属する私たちにとって、パズルから学べる教訓

私たちは「神の教会」の一部分ですが、パズルを作る時の原則で学んでいます。が、「神の教会」に属する一人一人としてどういうふうはこの原則を当てはめることができるでしょうか？

① 基本的なことから始める

「枠」の方から始めましょう。お互いにつき合う中で、「神の教会」としてつき合う時、お互いにこれだけは守っておきましょうという聖句があります。

「それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい」(2ペテロ 1:5-7)。

信仰から始まって、一つ一つ付け加えて、教会を神様の栄光のために造っていかないとはいけません。そして最後に一番大切なものは「お互いに対する愛」です。教会生活の中で一番大切な「枠組み」を決して忘れないように、「神様の教会」で長く生活するにあたっていろいろな事を学びますが、土台となる「枠組み」—お互いに対する信仰、徳、知識、節制、忍耐、信心、親切、兄弟愛、そして愛を忘れないように努力したいと思えます。

② 枠内にとどまる

そして「枠組み」の中から外れないように、黙示録 1:8 「今いまし、昔いまし、やがてきたるべき者、全能者にして主なる神が仰せになる、『わたしはアルパであり、オメガである』」。

英語では「アルパであり、オメガであり、最初から最後までいる者、主である。わたしは昔から存在し、間もなく来る、今もいる」とあります。

すべてのすべてがイエス様、神様であります。「神の教会」から外れていかないように、気を付けなければなりません。

「あなたがたにさわる者は、彼の目の玉(ひとみ、apple of His eye)にさわるのであるから、あなたがたを捕えていった国々の民に、その栄光にしたがって、わたしをつかわされた万軍の主は、こう仰せられる」(ゼカリヤ書 2:8)。

③ ピース(個人)を考慮する

強調したいところは、「神の教会」—イエス様にとって、天から見ている地球の中で、一番大切なものは彼の教会です。その教会をいじめる者、さわる者は「目の玉にさわるのである」—神様の教会をいじめる人は「イエス様の目を突っついているようなものだ」というのです。だから私たちは属している「神の教会」を大切なものとして扱わないといけません。軽く見たり、悪口を言ったり、簡単に出たりすることがないように気を付けましょう。

ピースの種類を分けていくことによって、パズルはもっと易しく作り上げることができます。教会の中でいろいろな賜物が与えられています。そしてみんな同じような賜物はもらっていません。

④ 自分の霊的賜物を見つける



「あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。そして、神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者、

第三に教師とし、次に力あるわざを行う者、次にいやしの賜物を持つ者、また補助者、管理者、種々の異言を語る者をおかれた」(1コリント 12:27、28)。

パズルのピースはみんな一つ一つ特徴があります。全く同じピースはありません。似ているように見えるけれど、やはり違いが見えてきます。私たちも与えられている賜物が違いますし、性格、経験などあらゆる面で、みんなそれぞれユニークなピースです。教会の生活の中でお互いを必要としています。お互いに一番よく神様の栄光のために働きを進めるために、考えながら教会の生活をしていかなければいけません。

⑤「完成図」を見よう：

「大きな絵」—全体像を見ながら、パズルを作っていくように、私たちも何を目的として何を作ろうとしているかをいつも思い出しつつ、教会の生活をして行かなくてはなりません。いろんな賜物を与えられている教会員として、賜物が違い、性格も経験の違いもありながら、キリストによってすべて一致できるのです。

「霊の賜物は種々あるが、御霊は同じである。務は種々あるが、主は同じである。働きは種々あるが、すべてのものの中に働いてすべてのことをなさる神は、同じである」(1コリント 12:4-6)。

⑥ゴールは世にキリストを表すこと

神様の栄光のためにみんな別々のいろんな賜物を持ってきて、教会の生活をしないとはいけません。そして最終目的はイエス様を世の中に反映していくことです。世の中の人たちはイエス・キリストを見ることはできない、しかし教会の人たちを見ることによって、私たちがちゃんと一致して働きをしているならば、私たちを通して世の人々はキリストを見ることができるようです。

「キリストは、ご自分の教会の中に、ご自身をあらわそうと熱望しておられる。キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現された時に、彼らをご自分の所に迎えるために、主はこられるのである」(キリストの実物教訓 47)。

⑦キリストにある多様性の一致。無理矢理に押し込めないこと

イエス様の品性が私たちを通して表わすことができることによって、再臨を早めることができるのです。それが「大きな絵」です。それを決して忘れないように、私たち一人一人に役目が与えられています。そういうことで、パズルの一つのピースを無理やり当てはめられないように。私たちもお互いに性格や賜物を持っている者として、無理やりにはめようとするのはしないでいいのです。必ず神様はピタッとはまる場所に私たち一人一人にやってほしい仕事、行ってほしい場所を

与えて下さいます。無理やり自分で考えたり、計画したりして自分の思いを押し通そうとする必要はありません。神様が全ての人に与えられる適材適所がありません。

最初に、私たちが時計のパズルを作ったと言いましたね。その中で、後ろの時計の色はみんな同じような木目の色で、すべて同じ色に見えるし「どうやってパズルとして作っていくんだろう」と思った時に、みんなは飽きてしまって他のことをやり始めました。次女の恵理加と私だけ「最後までやろう」と言って、80個くらいあった同じように見えてどうやって見分けるのか分からないようなピースを、「こうやってやろう」とシステムを考えたのです。

⑧各々の賜物を補足し合う。凸凹が必要。でなければ、我々は互いにくっつくことができない。



パズルにはみんなでごぼこ(凸凹)があります。数えながらパターンがあることを考えました。例えば凸凹凸凹凸凹(デコボコ)と種類を分けて、また違う凹凸凸凹凸凹(ボコデコ)と名前を付けるのです。それぞれのパターンを決めて、種類を分けていくのです。どこかにはめたい時にはデコボコやボコデコの種類を見てその中から当てはめようと、そのようなシステムを作っていくのです。

一人一人、凸と出ている部分—得意な分野、凹と欠けている部分—苦手な部分、みんなそれぞれありますよね。神様はそれを通してこの教会を造り上げようとなさっています。デコボコがなければパズルははまってちゃんとした絵になっていきません。みんなきれいなまるまる(〇〇)だとパズルになっていきません。くっつきません。人間の凸凹がありながら、それを通して—もちろん磨かれながら—神のみ心に従うことによって、その凸凹がはまっていく場所があるのです。私たちも時々ぶつかり合いながら、「何であの人は凸があるんだろう？ どうしてあの人は凹があって抜けているばかりで、こういう人がどうして教会員なんだろう？」と思う時があります。しかし、その凸も凹も大切なものであるのです。神様はそれを通して彼の品性を世の中に表わそうとしておられます。

一つのピース(一つの魂)も必要！

最後に、すべてのピースは大切なものであります。不必要なパズルのピースというのはありません。教会の生活の中でも、ひとりひとりがイエス様にとっては大切なピースであります。



「主は遠くから彼に現れた。わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた」(エレミヤ書 31:3)。



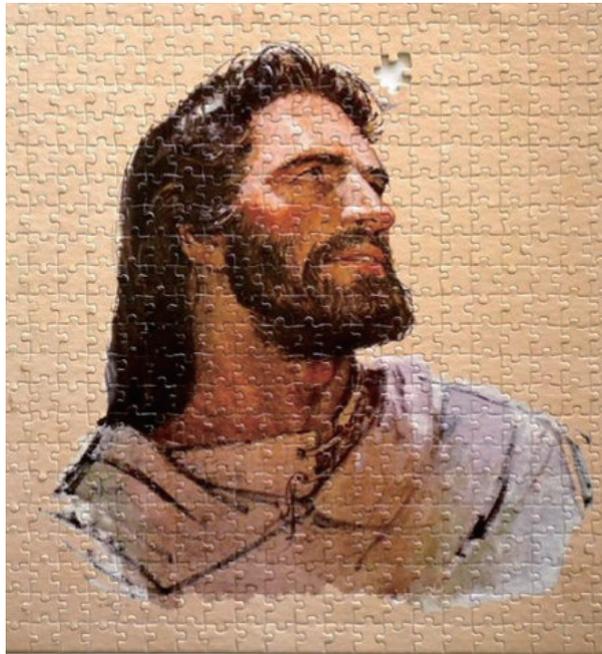
神様は一人一人に「限りなき愛をもって」ご自分に引きつけようとされています。

「一体、だれが一人の魂の価値を評価できるであろうか。もしその価値を知りたいと思うならば、ゲッセマネへ行って、血の大きなしずくのような汗を流して苦しまれたキリストと、苦悩を共にするとよい。そして、十字架にかけられた救い主を見ることである。『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』というあの絶望の叫びを聞き、傷ついた頭、刺された脇、さかれた足を見なければならぬ。そして、キリストは、ここで、すべてのものを失う危険を冒しておられたことを忘れてはならない。わたしたちの贖罪のために、天そのものが危機におちいったのである。十字架の下に立って、キリストはただ一人の罪人のためでさえ、その命をおすてになったのだということを考える時、始めて、一人の魂の価値を正しく評価することができる」(キリストの実物教訓 176)。

「一人の魂」のためにイエス様は十字架に架かれたと書かれています。「一人の魂」を救うために、私たちを救うために、「天そのものが危機におちいった」。

そのようなリスクも「よい」とされて、私たちを救うためにイエス様は十字架に架かれたのですね。だから一つのピースでも欠けたら永遠の損なのです。イエス様が「一人の魂」のためにでも、天から降りて来て十字架に架かれた。そういう時に私たち、教会の中を見回して「この人はいなくていい、役に立たん」と言えるのでしょうか。一人も役に立たないという人はいません。イエス様にとっては一つ一つのピースが大切であります。イエス様の品性を、私たちの教会を通して表わそうとされているパズルの中で、一つでもピースが欠けていたならば、その絵は完成していきません。神様は私たち一人一人が与えられている場所にピタッとはまって、いつか近い将来にイエス様の美しい品性が、世の中に表われるのを願っておられます。

「天国では涙はない」と聖書には書いてありますが、外に現れるかどうかわかりませんが、イエス様の心の中には永遠に空っぽな痛みの場所が残ると思います。一人でも永遠の命に与らなかった時に、永遠にイエス様の心の中には、欠けているピースがあるのです。私たち一人一人が天国に行かないといけな理由は、自分が永遠に楽しみたい、永遠に天国で喜びたいというわけではありません。イエス様の心の中の穴を少しでもふさぐように、私、あなた、一人一人天国に行かないといけなのです。私たちのためではなく、イエス様のために天国に行かないといけなのです。



インターネットでも
ご覧になれます。

毎週の説教動画、セミナー等更新中。
無料書籍も閲覧可能です。

サンライズミニストリー

検索



Online Sermons



facebook

Sunrise Ministry | Facebook
<https://www.facebook.com/srsministry?ref=hl>

You Tube

Sunrise Ministry | Youtube Channel
https://www.youtube.com/channel/UC_MrvUh7GCW2yGpWmYNSGxA

アドベンティズムの動揺

金城重博

序論：

セブンスデー・アドベンチスト（第7日安息日
来臨待望者）は、実は最も古い教会である。それはエデンから始まった。アダム、アベル、セツ、エノス、ノア、アブラハム、ヤコブに至るすべての家長たちはセブンスデー・アドベンチストであった。選民がエジプトに奴隷になったとき、多くの者は、広く行き渡っていた偶像礼拝のただ中で、神の知識を忘れた。しかし主は、イスラエルを救い出されて再び安息日の戒めを与えられた。神の子たちは、ずっと第7日安息日メシア来臨待望者であった。

ユダヤ教会は、バビロン捕囚後も、安息日の改革がなされ、メシア来臨を待つ「望みを持つ囚われ人」と呼ばれた。

ついにメシアが来られて、ご自身も安息日に会堂に行かれた。初代教会も「おきてに従って」安息日を休んだ。新約の教会は、主が「わたしはまた来る」と約束なさった再臨を待つ、セブンスデー・アドベンチストであった。迫害された「荒野の教会」もセブンスデー・アドベンチストであった。

しかし中世時代、1260年の間に、霊的イスラエルは霊的バビロンの捕囚となってしまう、ほとんどのキリスト教会が日曜礼拝にどっぷりとつかってしまった。その1260年にわたる霊的捕囚が解かれて間もない19世紀の半ばに、神は再臨運動を起こされたのであった。

セブンスデー・アドベンチスト教会の起こり

SDA教会の方は重々承知のことだと思うが、その起源から、どうして今日ようになったかをごく簡単に復習したい。セブンスデー・アドベンチスト教会＝SDA（第七日安息日再臨教会）は、預言されていた教会である。他のキリスト諸教会は、聖書の解釈の違いや、個人的な意見の相違や、権力

争いから分派していった。

SDAの誕生と背教と再起が聖書に預言されているか？ 聖書のどこに書いてあるだろうか。黙示録10章にどのようなプロセス（経過）で再臨運動が起こったかが描写されている。

19世紀の半ばにウィリアム・ミラーが再臨運動の先駆者として神から選ばれた。彼は、終わりの時代まで封印するように天使からあの大預言者ダニエルに言われていた「小さな巻物」、すなわちダニエル書の研究に没頭した。ダニエル8:14「二千三百の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」との聖句に基づき、再臨運動が米国で誕生した。同時にヨーロッパでも「キリスト来たりたもう」との大再臨運動が起こり、全世界に展開していった。

しかし、1844年10月22日に再臨がなかったので大失望する。

一般キリスト教会はウィリアム・ミラーを狂信家として見る。ダニエル8:14「聖所の清め」については一切触れない。触れたとしてもアンティオカス・エピファネスが聖所を荒廃させたと、全く文脈から外れた解釈をする。

再臨運動は「口には甘く、腹には苦い」「大失望」の経験であった。この「大失望」も物笑いとなる。しかし、弟子たちも同じ経験をしたのではなかっただろうか。ダニエル9:26「62週の後、メシアは断たれる」という預言の一句を見逃してしまったのだ。彼らはメシア王国の大きな期待を持っていた。しかし、彼らの大失望はまさにキリスト昇天後の大きな伝道の最高の準備となった。同じように19世紀の再臨待望者達も地上の聖所（または、教会）を清めるためにキリストは再臨なさると誤って解釈し「大失望」を経験した。弟子たちと同じように、残ったわずかな人たちは、堅忍不拔の精神で更なる研究をする。その経験を通して、彼らはキリストが、天の至聖所で「調査審判と最後の贖い」の

働きを終えたら再臨なさるのだということが分かり、立ち上がった。黙示録 10 章に書かれているとおりであった。

聖所と聖所の清めとは何かという研究を追求していくと、ダニエル書と黙示録、またヘブル書に新しい契約の聖所を発見！予型である地上の聖所のことから、実体の天の聖所におけるキリストの大祭司の働きが明確になってきた。それは、また調査審判であることも分かった。至聖所に大祭司としてのイエスを見出す。天の至聖所で契約の箱に十戒を見た。それを守ることの重要性を知る。黙示録 11:19、12:17。特に安息日の重要性＝第七日安息日が三天使の使命（三重の使命）の一部であることが分かり、1863年に第7日安息日再臨教会として組織された。

キリストの再臨に備えるために「神の戒めを守り、イエスの信仰を守る」聖徒たちが全世界から出現するという希望をもって伝道が全世界に展開されていった。

罪から全く清められていなければならないと信じた。彼らはキリストの再臨の前に、罪なき完全になって、「神の戒め」と全く調和していなければならないと高く律法を掲げた。「しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである」エペソ 5:27。

黙示録 12:17 の神の戒めを守り、イエスのあかしを持つ教会＝女の残りの教会＝最後の真の教会という確信を持っていた。

いろいろなキリスト教派から聖書的な教理を持つ者たちが集まった。以下は SDA の 7 つの真理の柱と言われている：

The Seventh-day Adventist Encyclopedia (vol. 10, pp. 895, 896) Compiled and amplified by Jerry A. Stevens August 9, 2006

1. 聖所 S-anctuary in Heaven
2. 黙示録 14 章の三天使の使命 S-summons to worship God, leave Babylon
3. 再臨 S-second Advent imminence
4. 再臨後千年期 S-abbatical thousand-year rest for Earth
5. 死後の状態 - 復活まで眠り S-state of sleep preceding gift of immortality
6. 第7日安息日 S-abbath of God vs. all false sabbaths
7. 預言の霊 (イエスのあかし) S-spirit of Prophecy a gift to remnant church

聖書基礎教理においてここまでは、ほぼ一致していた。しかし、古代イスラエルのように変化が起こる。初代 420, 421 「堅固な土台」参照



永遠の命の条件
は
律法への服従

贖罪の犠牲
と
全能の仲保者

天の至聖所の律法に目を向け、それを強調するあまり、あわれみ深い大祭司、キリストの働きと立場を見えなくし、サタンは我が教会を律法主義に陥れた。エジプトから出てきた古代イスラエルのように（彼らは十戒が与えられたときに、3回も私たちはそれを守り行いますと言った）。

神の民は律法主義、形式主義に陥り、ラオデキヤ教会（1852年から）と呼ばれるようになった。真理は漸進的であるべきなのに、進まず自己満足に陥った。しかも大祭司の立場と働きを見失った。イエスの功績にのみ頼ることを見失った。約 40 年の荒野の放浪となる。「多くの者はイエスを見失っていた」TM91, 92 RH, MARCH 20, 1894. 「律法とキリスト」を説いていたが「律法にキリスト」を見出せなかった。調査審判を大祭司イエスの「最後の贖い」から切り離して説いた。さばきは「聖徒たちのため」「永遠の福音」であることを見失っていた。

そこであわれみ深い主は、**1888年のミネアポリス世界総会**で使徒時代以来、人間の唇から聞いたことのない「最も尊いメッセージ」を、ジョーンズとワゴナーを通してあたえられた。40年の荒野の流浪を終わらせ、古代イスラエルに乳と蜜の流れる約束の地に入る時が来ていた。カデシ・バルネアにおいて、ヨシユアとカレブがメッセンジャーであった。同様に、霊的イスラエルーセブンスデー・アドベンチストにもその機会が与えられる時が来た。

「信仰による義認は…第三天使の使命そのものである」。1888 R H 1890, 4-1

「主は大いなる憐れみのうちにワゴナー及びジョーンズを通して、ご自分の民に最も尊い使命を与えられた。その使命は、上げられた救い主、全世界の罪のための犠牲をさらに顕著に世界に示すものであった。それは、保証人であられるキリス

1888年



律法主義から

信仰による義認
聖徒の完全
罪の除去

贖罪の犠牲
と
全能の仲保者



1888年の
使命者

1888年

E.J. Waggoner

A.T. Jones

トを信じる信仰を
通して与えられる
義認を提示した。
それは神の全ての
律法への服従に表
されるキリストの
義を受け入れるよ

うに民を招くものであった。多くの者は、イエスを見失ってしまった。彼らの目は神としてのお方の功績、人類家族に対する不変の愛に向けられるべきであった。すべての力は彼のみ手に与えられ、そして彼はその尊い賜物を人に分け与え、無力な人間の器にご自分の義の比類なき、尊い賜物を与えられるはずであった。これが、神が世界に与えようとなさったメッセージである。それは大いなる叫びで、大量の御霊の注ぎを伴って宣伝されるところの第三天使の使命なのである」。牧師への証 92, 93

それは後の雨 / 大いなる叫びをもたらすはずの
メッセージであった！

教会は受け入れ説と拒否説に分かれた。詳細は割愛する。そして古代イスラエルのように荒野をさまようことになる。

1950年代に、ウイーランドとショートは「1888年再吟味」を世界総会に提示。「キリスト中心の説教」はバビロンー他教派からの借り物であって、1888年のメッセージではないと主張。

E.G. ホワイトは SDA 教会に大きな変化が来ると預言された。

W・C・ホワイトによって送られた手紙、Elmshaven、24、1915:「1888年再吟味」D.K. Short, R. J. Wieland に引用。

「わたしは我が民に告げるように命じられた：ある人達は悪魔が次々と策略を練って、彼らが思いもしない方法でそれらを遂行することに気がつか

ない。サタンの代理者は聖徒を罪人とする方法を案出するであろう。わたしは今言っておきたい。わたしが死んでから、大きな変化が起るであろう。わたしはいつ召されるかはわからない。しかし、悪魔の策略に対してみんなに警告したい。わたしの死ぬ前に十分に警告したことを我が民に知ってほしい。わたしはどんな変化が起きるかは特に知らない。しかし、サタンが永久化しようとする罪のすべてに注意しているべきである」。

(セレクトッド・メッセージ 1 巻 204, 205 ページ) :
特別な証、シリーズ B、#7, 39 ~ 40 10-1903 年

「魂の敵はセブンスデー・アドベンチストの間で大改革が起こるべきであるという推測を持ち込もうとしてきた。この改革は我々の信仰の柱として立ててきた教理を放棄し、組織の再編成に従事することで成り立つというものであった。このようなことが起こったなら、その結果はどうなることであろう？ 神の知恵によって残りの教会に与えられた真理の原則が放棄されるであろう。我々の宗教が変えられるであろう」。

SDA は原点から変わってきただろうか？

筆者は、指導者から、SDA は「30 年前 (1980 年代頃) から公に聖書教理理解において大きく変わったのだ」と言われたことがあった。またある指導者は 1950 年代から変わったという。

元レビュー・アンド・ヘラルドの編集長、ケネス・ウッドは「どうして我々はこうなったのか？」という論文に次のように書いた。

「我が教会員の一人がくれた手紙の中によく表されている：『1956 年まで教会の教えと理解はよく統一されていた。我々はみんな同じことを信じ、教えた。異なった立場を取るものは、なんらかの危惧の目で見られた。しかし、時代は確かに変わったのだ』。

教会の歴史を研究する多くの者は、今日の教会の教理的な分裂の根本的原因は 1950 年代半ばのウォルター・マーティン、ドナルド・バーンハウスとの問答とそれに続く 1957 年の『教理への質問』の出版にあると指摘する。ある者は、それ以前の 1950 年の R. J. ウイーランドと D. K. ショートによって出版された『1888 年再吟味』と、1888 年の使命の拒否に主な原因があるとする。また、ある者は、ロバート・プリンスミード (1960 年代) による聖所覚醒運動を拒否したことに今日の神学的混乱の最も大きな原因があるとする。

私は最初のグループに属すると考える。なぜなら、エバングェリカル（福音主義派）の人たちとの問答と『教理への質問』の出版（日本語で「教理の研究」として出版されている）が教会内に批評、疑い、不確かさ、うわさ、指導者への信頼の喪失という風潮を作り上げたと思っているからである。How We got Where We are” Kenneth, H. Wood, p 2

“Questios On Doctrines” 「教理への質問」－日本語版「教理の研究」

「教理の研究」が1957年に出版された経緯は簡単に言うてこうである。

セブンスデー・アドベンチストは今まで、非キリスト教的で珍奇な教えを持つ教派と非難され、モルモンやエホバの証人のようなカルトだと、キリスト教界からはじきだされていた。比較宗教、カルト（異端、分派）の研究で有名な、福音主義派のバーンハウス博士とマーティン博士が我が教会の指導者のフルーム、R. A. アンダーソン、リード、アンルー長老らと何百時間もかけて教理の調整をしてキリスト教界に仲間入りさせてもらいたいと出版されたのが“Questios On Doctrines” 「教理への質問」である。それは、セブンスデー・アドベンチストの公式の出版物ではなかったが、それを全世界の働き人に強く勧めたのが当時の世界総会総理、R. R フィギュアであった。

アドベンチスト・ライフ 1993年6月号の記事を引用しよう：

「1957年に牧師会主導で『SDA 教理への質問』を発行し、聖書とE. G. ホワイトとの関係、キリストの品位（キリストの性質と訳した方がいい）、信仰による義認などの聖書主義を明確にすることで、ようやくSDAも一般キリスト教界から好意を持って受け入れられるようになった」。

しかし、悲しいかな、この妥協がSDAに大きな変化をもたらした。「我々の唯一の安全は、神の特別な民として立つことである」(5 T78)。「岩の頂からながめ、丘の上から見たが、これはひとり離れて住む民、もろもろの国民のうちに並ぶものはない」(民数記23:9)。

それによってSDAは大きく変化したと元レビュー・アンド・ヘラルドの編集長、ケネス・ウッドは言った。

どんな変化があったのだろうか。

1. 十字架で贖いは完成した。

2. 至聖所の「最後の贖い」というものはない。「特別なあがない」「特別な清め」はない。
3. 罪なき完全な品性は再臨前には不可能である。
4. キリストはアダムが罪を犯す前の性質を取られた。
5. 律法に服従する必要性と可能性をぼやかした。
6. バビロンと残りの民に関して妥協。他教派も残りの民の一部を構成する。
7. 預言の霊に対する解釈を希薄にした。

これまでのSDAの教理：アダムが墮落して後の性質を取られた。

それ以来、信仰による義、獣、獣の刻印、預言の霊、他教派＝バビロン、十戒に関すること等々が希薄にされてきた。黙示録13章の獣はローマカトリックであり、他教派はバビロンであることをはっきり言わなくなった。



その本が出るまでは、SDAの神学を導いてきたのは信心深いM. L. アンデレアセンであった。彼はそれまで50年間も保持してきたSDA神学、特にSDA神学の基礎であり、大黒柱である「最後の贖い」が省かれたことと、また「キリストはアダムの墮落前の罪なき性質を取られた」という変化に非常に危険を感じて「letters to the churches 諸教会への手紙」を書いて配布した。それまでは「キリストはアダムの墮落後の性質を取られた」というのがSDAの立場であった。彼は警告した：

「指導者たちが偽りの教理を強制し、反対する者を脅かそうとする危機がこの教団にやって来た。全く信じられない。何年もの間に据えられてきた土台を取り除こうとする試みが今なされている。そうすることによって成功すると考えている。もし我々に預言の霊がなければ、今我々を脅かしているような健全な教理から離脱するということが分らないであろう。わが教団を破壊し、ひどい傷をもたらすオメガの到来も分らないであろう」“How We Got Where We are” Kenneth. H. Wood に引用。P44。

エドワード・ヘッペンストール：



さて、1960年代になると、SDA神学のトップはエドワード・ヘッペンストールとなる。彼は、罪とは何かという問題に深い洞察を入れた。聖書の罪の唯一の定義「すべて罪を犯

す者は、不法を行う者である。罪は不法である」一ヨハネ 3:4を否定したのではなかった。ただ、罪は律法を犯す行い以上のものであり、人の深い性質が罪の泉であるとした。「クリスチャンは、なおもその内に悪の泉、墮落した性質が残っていることを知っている」ST2-1963。人間の心の奥深くにある種であるというのである。

罪は、我々の行為だけでなく、我々の性質そのものが罪であるという観念から、それは、聖化によって取り除かれるものではなく、クリスチャン生活においてずっと残る、再臨まで残ると説いた。

それ以後の神学者たち、牧師たちもそのような考え方をしていく。その神学が完全論にどんな影響を及ぼすだろうか。どこまでも神の恵みによって義とされるのである。罪を犯すことにおいては完全に勝利するが、罪の泉、根が残っているので、再臨までは完全に罪が残るので、それ以前は罪なき品性は不可能という結論に至る。

「古い人は我々の死、またはキリストの再臨の時まで我々の内に残る」。Definition of Righteousness, 18,

「この原罪はクリスチャンと非クリスチャンに、彼らが死ぬか、昇天するまで残る」。Definition of Righteousness, 20

「ここにこの地上での罪なき品性に関して最も厳粛な警告がある。クリスチャンは彼の内になお悪の泉、墮落した性質が残っていることを知っている」。ST, 12-1963

テラー・バンチ

「我々はイエスが来られる時にのみ完全にされることを覚えるべきである」。The Ministry, 12-1965

R・S・ワッツ

「我々はこの世では罪なき完全には到達できない」。RH, 5-19, 1966

デズモンド・フォード：



「献身した信者は彼の上に (On him) 罪はないが、彼の中に (in him) 罪を持っている。ちょうどキリストが彼の中に (in Him) 罪がなかったが、彼の上に (On Him) それを持っておられたように」。

「我々の古い性質は主が再臨なさる時に、栄化される時に、ついに滅ぼされるのである。その時、我々

の中に、我々の上に罪がなくなるのである」。ST (オーストラリア), 12-1967

ジョージ・ナイト：



そして、近年に日本の指導者に大きく影響を与えたジョージ・ナイト。アドベンチスト・ライフ 1994年11月号にK牧師とナイト博士の質疑応答にこうあった：

K牧師「E.G. ホワイトの書の中に『キリストの再臨以前仲保者なしに神のみ前に立つ』という意味の文章がありますが、私たちは再臨以前に『罪なき者』になることができるのでしょうか」。

ナイト：「多くの人が仲保者なしに立つという言葉を誤解していると思います。『仲保者なし』ということは『救い主なし』という意味ではありません。神のみが完全なお方です。私たちはこの世で神のように罪なき姿になることは決してありません。人類は罪深く、心は破れています。私たちはいつでも救い主キリストが必要で、再臨のとき、心も体も完全に回復されるのです」。

※注：いつでも救い主キリストが必要ということは、大賛成である。至聖所で罪が除去されて後、いや、天国に行っても「ただあなただけが聖なるお方です」と贖われた者たちは告白する（黙示録15:4）。自分の内に聖、義、善があると永久に意識しないでしょ。キリストだけが我らの聖であり、義であり、知恵であるからだ。

「キリスト再臨のときには、体が栄化されるのであって、心からの罪の清めと回復はなされない」ことは聖書と証の書から明々白々である。

完全論の論争

1960年代になると完全論について大論争が起こる。聖所の覚醒運動を起こしたロバート・プリングミード兄弟は、博士号を持たない信徒であった。彼はヘッペンストール博士が反論した「完全は可能か」に対して、聖書と証の書は明々白々なので「どのように完全は可能か」という記事を書いて反論した。「完全」は「成熟」と言い張る人も出てきた。今もその議論は続いている。それより、「愛と一致」の呼びかけがキリスト教会のテーマソングになっている。

そもそも、再臨前にこの地上では「人間である限り罪なき完全は不可能である」というのはどこに根拠があるかということ、ヘッペンストール博士の

「原罪論」の教理である。

罪についての論議が大きく三つに分かれた：

1. 罪とは、罪の行為だけでなく、罪の根、泉、原罪、罪性であり、生まれながら罪の性質を持っている。ゆえに、神の恵みによって聖化の段階において、勝利していくが再臨までは信者の内に罪が残るので、罪なき完全はこの地上ではあり得ない（これを自由派と呼ぶ人もいる）。ヘッペンストール神学は、罪深い状態で生まれてくるから、どうせそうなら、罪を犯すのは仕方がないと言ったのではなかった。罪に対する勝利は説いたが、「罪なき完全」は再臨以前には不可能という結論を出したのである。
2. 罪とは、生まれながらの性質ではなく、一ヨハネ 3:4 に書いてあるように、「すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法（律法違反-欽定訳）である」。これが「唯一の定義」（大争闘下 228）であり、自由意志によって律法に違反する行為である。そのときに罪人となるので、神の恵みによって自由意志で絶えず勝利し続けることができる。生まれながら持っている罪の性質は、罪ではない。従って絶えず聖霊によって罪に勝利し続け、勝利しきったとき完全となり、最後のテスト、裁きの前に完全な品性に到達していなければならない。つまり完全とは罪深い性質は信者に残っていても罪に完全に勝利することだという。完全とは、完全に罪を犯さなくなることであるというのである（これを保守派と呼ぶ人もいる）。
3. ロバート・プリンスミードによる聖所の覚醒運動ではどの立場だったろうか。罪については、

1. と同じであり、生来の罪も、悔い改めた罪も記録は残り、至聖所における最後のあがないにおいて、後の雨によって除去される。

ヘッペンストールの罪の定義においては一致していた。単なる自由意志による律法違反という行いだけでなく、もっと深い原罪＝罪性による徹底堕落を説いた。「心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか」エレミヤ 17:9。

セブンスデー・アドベンチストは「原罪」という言葉は使っていなかったが、その概念は、宗教改革の基本であった。

メラnhitonによって作成された 1530 年のアウグスブルグ（プロテスタント）の信仰告白は、

「我が教会は、満場一致で・・・アダムの墮落以来、すべての人は罪の性質を持って生まれてくることを説く。それはすなわち、神を畏れず、神に信頼せず、強い肉欲を抱き、そしてこの病または生まれながらの悪徳がまさに罪であり、今でもバプテスマと聖霊によって生まれ変わらない者たちに有罪判決を下し、彼らに永遠の死をもたらしている」。Luther's Small Catechism, p. 90 に引用。

ルターも、カルバンも、ウエスレーも教理の全部は必ずしも一致していなかったが、この原罪に関しては一致していた。罪とは、人間の「原罪＝罪性」、生まれながら、人間の心ははなはだ悪に染まっているとヘッペンストールと上記に挙げた SDA の学者たち、そしてプリンスミードも同じ立場を取った。そしてそれはクリスチャン生活において残ると説いた。

その事実は、神学者でない、我々平信徒も経験上知っているはずである。

しかし、ヘッペンストール神学とプリンスミードの聖所の覚醒運動との決定的な違いは、罪深い性質も罪の行為（心の行為も含み）も、再臨ではなく、至聖所にイエスがおられる間に「もろもろの罪から清められ、あがなわれる」ということであった。この罪の除去は、天の記録ばかりではなく、信者の心からも完全に永久に至聖所における、大祭司イエスの「最後の贖い」によってなされると説いた。

そして「ここに神の戒めを守り、イエスの信仰を守る聖徒の忍耐がある」と至聖所に信者の目を向けたのであった。多くの者がイエスを見失っていたときに、イエスの天でのさばきにおいて最後の贖い＝罪の除去が提供されている。至聖所にイエスを見出し、喜びと希望と確信を抱くようになった人々が多く現れた。調査審判は「聖徒たちのため」（ダニ 7:22）、永遠の福音であると強調。それが聖所の外庭における信仰による義認の経験、聖所における信仰による義認の保持＝聖化であること、そして至聖所における「信仰による義認の完全で十分な赦しと義認」すなわち完全の経験であることを説いた（大争闘下 216）。

聖所の覚醒運動の強調点は次のようなものであった：

- 教会は至聖所における「特別な、最後の贖い」の経験にまだ入っていない。

- 罪の除去は、天の聖所の記録と神の民の心の記録からもなされ、再び思い出すことができなくなる信者の経験である。
- 生ける者のさばきにおいて罪の除去と後の雨が注がれる。
- こうして罪なき完全な品性が信者に大祭司イエスの最後の仲保による賜物として与えられる。

こうして罪の問題から、「完全論」をめぐる論争が白熱化した。簡単に言うと：

これに対して猛反対が起こった。上に挙げた自由派からも、保守派からも反対された。特に罪に日毎に勝利する聖化のプロセスによって完全な品性に到達すれば、イエスの再臨を迎えることができるのだと主張するグループから強い反対を受けた。

「自由派」からは、律法は目標ではあるが、完全には守れない、罪が完全に清められるのは再臨の時だという説教がなされるようになる。だんだん律法の標準も下がり、服従も説かなくなり、生ける者のさばき、調査審判、再臨近しという危機感も失っていく。そんなことを言って信者に恐怖感を与えるのは福音ではないと言われる。

この自由派と保守派神学の二つの考え方に致命的な欠陥があった。それは、至聖所における最後の贖い=罪の除去の概念が見失なわれていることであった。罪をどう定義づけようと、「もろもろの罪から清めあがなわれる」というSDA神学の神髄が抜かされたのである。

それらに付随して出てきた思想があった。F. T. ライトの考えであった。それは、クリスチャン生活のはじめに、悔い改めた時点で人間の肉の、罪深い性質は取り除かれるというものであった。また、アラン・スターキーの記事は、ヘッペンストール博士とプリンズミードの罪深い、腐敗した性質は信者になお残っていることに対する反論であった。それが裁き、聖所の清めの時まで残るとするのは間違いで、また更に再臨の時まで引き延ばすのは間違いだとするものであった。

1960年代は、ジフレー、バックストン（聖公会の神学者）に「アドベンチズムの動揺」と言われるほどの神学論争があった。

罪と完全論は、時代が経つにつれ、いろいろと枝分かれしていく。そして今日のような様々な説で混乱状態になっている。

おことわり：私は必ずしもプリンズミードのすべてを擁護しているのではない。彼の提示で初めて至聖所における最後の贖いに関することが明瞭になった。聖所の覚醒運動を通して、知らなかった聖書と証の書の引用文に目覚めさせられた。初めて100年間もほとんど話題にされてこなかった1888年に関するエピソードを知った。ウイーランドとショートの論文を知った。ある人は、彼が背教したから、その教えは異端だと思い込んでいる。ジョーンズとワゴナーは背教した。かの有名な天才ケログ医師も背教した。賢者ソロモンも背教した。だからと言って彼らの教えは異端であったか。箴言、伝道の書、雅歌書は異端であったと結論づけるだろうか。否、否である！偏見は真理の宝石に出会う妨げになることがよくある。



※「神学」は我々平信者には程遠いもので、救いと何の関係があるかという声が聞こえる。混乱するだけだとあきらめる人に、聖書と証の書から重要な引用文だけを掲載しておくので読者自ら真剣に学んで判断して頂きたい。

1. 罪について：

罪とは何か？

1ヨハ 3:4 欽定訳 「罪とは律法違反」（新改訳）
「罪とは律法に逆らうことなのです」。

大下 228 「罪についての唯一の定義は、神のみ言葉のうちに与えられている定義である。それは「罪は不法（律法違反—欽定訳）である」ということである。すなわち罪は、神の統治の基礎である愛という大法則（律法）と敵対する原則のあらわれである（"outworking of a principle at war with the great law of love"）。「原則の完成、現れ、働き、結果」。

大下 194 「神の律法は、その性質そのものから考えても、不変のものである。それは、その制定者の意志と品性の啓示である。神は愛である。そして、神の律法は愛である」。

ST, December 8, 1881 par. 「利己愛は我々の墮落した性質の大法則（律法）である。利己愛はキリストが魂に座を占めるべき場所を占領している」。

キ道 13 「けれども、神に背いたため、その能力は悪に向けられ、愛は利己心とかわってしまいました」。

1希望 46 「カルバリーの十字架に、愛と利己心

が向かい合って立った。ここにこの両者の最高のあらわれがあった」。

すべての人は罪を犯したか？

ロマ 3:23 「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」

ロマ 5:12 「ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいってきたようにこうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである」。

HP 146.4 「アダムの不服従の結果、すべての人間は律法違反者であり、罪のもとに売られた」。

我々の性質は生まれながら罪深いか？

キ道 81,82 「彼の罪のために、私どもの性質は生まれながら罪あるものとなり（墮落した）」。

RH, May 27, 1884 par. 11 「我々は生来罪深いものである -sinful by nature」。

RH 1887 /11 /29 「生来の罪との格闘 (inbred sin) があり、外部の悪との戦いがある」。

大下 243-245 「神は、『わたしは恨み(敵意—英語訳)をおく』と宣言された。この恨みは、人間が生まれながらに持っているものではない。人間は、神の律法を犯したときに、その性質は邪悪となり、サタンに敵対するのでなく、協調するようになった」。

人は生まれながら罪人であるか？

エペソ 2:3 「生まれながらの怒りの子であった」。

詩 51:5 「見よ、わたしは不義のなかに生まれました。わたしの母は罪のうちにわたしをみごもりました」。

4T 496 「人の心の中には生まれつきの利己主義と腐敗があり、それは徹底的な訓練と厳しい抑制によってのみ克服されるものである」。

人はどれほど墮落しているか？

エレ 17:9 「心はよるずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか」。

MM43 「人間の心の悪の醜さは、理解されていない」。

どうせ生まれながらの罪人だから、罪を犯してもいいか？

各時代の希望 中巻 8 「主は、悔い改める罪人をおゆるしになるだろうし、また実際おゆるしになるが、しかしゆるされても、その魂はそこなわれている」。

教役者への証 447 「あなたは今悔い改めることができるであろう。しかしたとえ赦しがあなたの名前のところに書かれたとしても、あなたはたいへんな損失をこうむることになる。なぜならあなたが自分の魂の上につくった傷は残るからである」。

各時代の希望 中巻 5 「われわれが罪を犯すたびに、イエスは新たな傷を受けられる」。

クリスチャン経験

新生の経験

ヨハ 3:3-6 「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。… 「肉から生まれるものは肉である」。

希上 201-202 「心の泉がきよめられなければならない。自分で律法を守る行為によって天国にはいるとする者は不可能なことを試みているのである。律法的な宗教、敬虔の形だけを持っている者には安全がない。クリスチャンの生活は古いものを修正したり改良したりすることではなくて、性質が生れ変わることである」。

希中 41 「魂がキリストに屈服する時、新しい力が新しい心を占領する。人が自分自身ではなしとげることのできない変化が行われる。それは超自然の働きであって、人の性質に超自然の要素をもたらす」。

聖化の経験

新生したクリスチャンにまだ罪深い性質は残っているか？

RH 1887 /11 /29 「生来の罪との格闘 (inbred sin) があり、外部の悪との戦いがある」。

キリストへの道 86 「イエスに近づけば近づくほど、ますます欠点が多く見えてきます。それは自分の目が開けて明らかになり、イエスの完全さ (nature- 性質) に比べて、自分の不完全さが大きくはっきりと見えるからです」。

患下 264 「使徒や預言者たちの中には、だれも罪がないと主張した者はいない。神に最も近く生きた人々、知っていて悪い行ないをするよりはいのちを犠牲にしようとする人々、神が聖なる光と権能をもって称賛した人々は、自分たちの性質の罪深さを

告白してきた。キリストを見る者たちはみな、このようになる。**イエスに近づけば近づくほど、そしてキリストのご品性の純潔さが更にはっきり認められるようになればなるほど、ますます罪のひどい罪深さを明らかに見るようになり、われわれ自身を高める気持ちはますます消えていく。**

● 罪の記録が残っている：

あ上 422 「キリストの血は、悔い改めた罪人を律法の宣告から解放したが、しかし、それは罪を消し去るものではなかった。**罪は最終的な贖罪の時まで聖所の記録に残る**のである。そのように象徴においても、罪祭の血は悔い改めた者から罪を取り除いたが、罪は贖罪の日まで聖所に残った。…

罪を消し去ることは、贖罪の日のつとめによってあらわされた。すなわち、地上の聖所を汚していた罪を除いてきよめることは、罪祭の血によってなしとげられた。真に悔い改めた者の罪が、ついに贖われて、天の記録から消されて、**もはや思い出すことも心に浮かぶこともなくなる**ように、象徴では罪は荒野に追いやられ、会衆から永遠に切り離された」。

5 T216 「**法令が発せられ、刻印が押されるとき**、彼らの品性は、永遠に純潔かつ**無傷**であり続けるだろう」。

エレミヤ 17：1 「ユダの罪は、鉄の筆、金剛石ののがりをもってしるされ、彼らの心の碑と、祭壇の角に彫りつけられている」。

希中 8 「すべて不純な思いは魂を汚し、道徳観念をそこない、聖霊の印象をかき消してしまう。それは霊的な眼をくもらせるので、人々は神を見ることができない。主は、悔い改める罪人をおゆるしになるだろうし、また実際おゆるしになるが、しかしゆるされても、**その魂はそこなわれている**」。

T M 4 4 7 「今あなたは悔い改めることができるかもしれない。しかしたとえあなたの名前にゆるしという文字が記されても、あなたはひどい損失をこうむることになる。あなたが**自分の魂につけた傷のあとが残る**からである」。

家庭の教育 204 「頻繁に繰り返された悪行は、霊的あるいは俗的なものであれ、その人とその人に関わっている人々の**心に永久的印象を残す**」。

3BC1158 スタディーバイブル旧 865 「彼は改心するかもしれない。同胞に対して行った不義の醜さを悟り、可能な限りの償いをするかもしれないが、傷ついた**良心の傷跡は残る**のである」。

● 罪深い性質が残っている：

RH 1887 年 11 月 29 日 「生まれつきの罪との格闘があり、外部の悪との戦闘がある」。

4T 496 「人の心の中には、生まれつきの利己主義と腐敗がある」。

RH 1882 年 5 月 30 日 「我々は、外部の悪と内部の罪に対し、日々戦いを挑まねばならない」。

2. 罪なき完全について

キリストの再臨の時に罪と、罪深い性質が清められるか？

ヘブル 9:28 「キリストもまた、多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた後、彼を待ち望んでいる人々に、**罪を負うためではなく(処理)に二度目に現れて、救を与えられるのである**」。

OHC 278 「キリストがおいでになる時、我々の卑しい体は変えられ、彼の輝かしい体のようにされる。しかし、その卑しい品性は、その時、清くされることはない。品性の改変は、彼がおいでになる前に起こるのである。**我々の性質は純潔で清くしなければならない**。我々の魂にご自分のみ像が反映されるのを主が喜びをもってごらんになるために、我々はキリストの心を持たなければならない」。

再臨の時でなければ、いつ罪は永久に完全に処理、除去されるのか？

● あがないの日に

レビ記 16:30 「この日 (**至聖所における贖罪の日**) にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、**もろもろの罪が清められる**からである」。

ヘブル 10：1-3、14-18 「いったい、律法はきたるべき良いことの影にすぎず、そのものの真のかたちをそなえているものではないから、年ごとに引きつづきささげられる同じようないけにえによっても、みまえに近づいて来る者たちを、全うすることはできないのである。もしできたとすれば、儀式にたずさわる者たちは、一度きよめられた以上、もはや罪の自覚がなくなるのであるから、ささげ物をすることがやんだはずではあるまいか。しかし実際は、年ごとに、いけにえによって罪の思い出がよみがえって来るのである。・・・彼はひとつのささげ物によって、きよめられた者たちを永遠に全うされたのである。聖霊もまた、わたしたちにあかしをして、『わたしが、それらの日の後、彼らに対して立

てようとする契約はこれであると、主が言われる。わたしの律法をかかれらの心に与え、彼らの思いのうち書きつけよう』と言い、さらに、『もはや、彼らの罪とかれらの不法とを、思い出すことはしない』と述べている。これらのことに対するゆるしがある以上、罪のためのささげ物は、もはやあり得ない。

大争闘下 393 「彼らは、自分たちが無価値なことを深く感じてはいるが、告白すべき罪を隠してはいない。彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは罪を思い出すことができない」。

● 調査審判の時に

大争闘下 218 「調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。しかし、使徒ペテロは、はっきりと、信者の罪は、『主のみ前から慰め〔原文では refreshing (活気づけ、回復の意)〕の時が』くる時にぬぐい去られる。そして、『キリストなるイエスを、神がつかわして下さる』と言っている（使徒行伝 3：19 参照、20）。調査審判が終わると、キリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行いにしたがってお与えになるのである」。

大争闘下 219 「審判が指定されていた時、すなわち、2300 日の終わる 1844 年に、調査と罪の除去の働きが始まった」。

※調査審判と罪の除去は不可分であることを覚えていなければならない。

大争闘下 215 「審判において、記録の書が開かれる時に、イエスを信じたすべての人の生涯が神の前で調べられる。われわれの助け主であられるイエスは、この地上に最初に生存した人々から始めて、各時代の人々のためにとりなし、現在生きている人々で終わられる。すべての名があげられ、すべての人の事情が詳しく調査される。受け入れられる名もあれば、拒まれる名もある」。

● 第三天使の使命の終了の時＝恩恵期間終了の時までに

 ※恩恵期間が終了する時、何が終了するのかに留意して頂きたい。赤字・下線していることがみな終了していたと現在完了になっている。英語でははっきりしている。

大争闘下 386 「第三天使の使命が閉じられると、もはや地の罪深い住民のための憐れみの嘆願はな

されない。神の民はその働きを成し遂げたのである。彼らは『後の雨』と『主のみ前から』来る『慰め』を受けて、自分たちの前にある試みの時に対する準備ができた。天使たちは、天をあちらこちらへと急ぎまわっている。1人の天使が地から戻ってきて、自分の働きが終わったことを告げる。すなわち、最後の試みが世界に臨み、神の戒めに忠実であることを示した者はみな、『生ける神の印』を受けたのである。その時イエスは天の聖所でのとりなしをやめられる。イエスはご自分の手をあげて、大声で『事はすでに成った』と仰せになる。そして、イエスが『不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うまにさせよ』と厳粛に宣言されると、天使の全軍はその冠をぬぐ（黙示録 22:11）。どの人の判決も、生か死かに決まった。キリストはご自分の民のために贖いをなさり、彼らの罪を消し去られた (has...blotted out)。キリストの民の数は満たされ、『国と主権と全天下の国々の権威』とは、今まさに救いを相続する者に与えられようとしており、イエスは王の王、主の主として統治されるのである」。

初代文集 451 「わたしは、第三天使の使命が終わろうとしている時をさし示された。神の民には天来の力がやどり、彼らは働きを完成して、目の前の試練の時に対する備えができていた。彼らは、後の雨、すなわち神のみ前より来る慰めを受け、生けるあかしが復活していた。最後の大きい警告が至る所で叫ばれ、それは警告を受け入れたくない地上の住民をわき立たせ、怒らせた。

わたしは天使たちが、天をあちこちと飛びまわっているのを見た。墨入れを持った1人の天使が、地上から帰ってきて、自分の働きの終わったことを報告した。そこで聖徒の数がかぞえられて封印（印されていた）された。すると、それまで十戒の納められている箱の前で奉仕しておられたイエスが、香炉を投げ捨てられるのをわたしは見た。彼は両手をあげて、大きな声で、『事はすでに成った』と言われた。イエスが『不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うまにさせよ』と厳粛に宣告されると、天使の万軍は冠をぬいだ。

各人の判決は生か死かのいずれかにきまっていた。イエスが聖所で奉仕しておられた間に、審判は死せる義人から次に生ける義人へとつづけられていたのである。キリストは、ご自身の民のために贖いをなして彼らの罪を消し去り、み国を受けておられた。み国の民はもうできあがっていた。小羊なるキリストの婚姻は終わった。『国と……全天下の国々』

の権威とは』みなイエスと救いを継ぐ者と共に与えられ、イエスは王の王、主の主として治められることになった」。

● 後の雨の時

使徒行伝 3:19 「だから、自分の罪をぬぐい去って（罪の除去）いただくために、悔い改めて本心にたちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである」。

（この聖句の説明は各時代の大争闘下 382）

RH, 1884-10-21 「贖いの日に…すべての者が神の前に魂を悩まし、さばきに先立って罪が告白される時、慰めの時（後の雨）が来て罪が除去されるであろう」。

● 法令が出てから

国下 193-196 「人間の布告に服従するように要求される。…残りの教会は、心へりくだり揺るがぬ信仰をいだいて、彼らの助け主イエスによって、赦しと救出を嘆願するのである。彼らは自分たちの生活の罪深さを、十分認めている。彼らは自分たちの弱さと無価値さを知っている。そして、今にも絶望するばかり…

神の民が神の前で心を悩まし、心が純潔になることを嘆願するとき、『彼の汚れた衣を脱がせなさい』という命令が出される。そして、『見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう』という励ましの言葉が語られる（ゼカリヤ 3:4）。キリストの義というしみのない衣が、試練と誘惑に耐えた忠実な神の民に着せられる。さげすまれた残りの民は栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることはない。…永遠に安全なものとなった…生ける神の印を押していた」。

1844年代の再臨信徒は、E. G. ホワイトをはじめ、罪に勝利してきた。「彼らは完全な犠牲と全的献身をしており、不死の姿に変えられることを期待していた」。初代文集 393

UL 99, YI 1899/8/24 「我々の良心は、生ける神に仕えるために、死んだ業から浄化されなければな

これらの諸事件は順序ではなく、恩恵期間まで並行的に続く

最後のテスト

生ける者の裁き

最後の贖い=罪の除去

後の雨=神の印

婚姻

御国を受ける、144,000

大いなる叫び=第三天使の使命

日曜遵守令

恩恵期間の終了

大いなる悩みの時

再臨

らない。…我々は、完全ではないが、自我と罪のもつれから除去されて完全へ進むことは我々の特権である」。

● 罪なき状態

大下 396-397 「『かつてなかったほどの悩みの時』が、まもなくわれわれの前に展開する。それだからわれわれには、もう一つの経験—今われわれが持つておらず、また多くの者が怠けて持とうとしない経験—が必要なのである。…今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心の中に罪の欲望があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。しかし、キリストはご自身について、『この世の君が来る……。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』と宣言された（ヨハ 14:30）。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかった。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである」。



※ 聖化は完全ではない。聖化の段階、勝利の段階は罪なき完全ではない。それは宗教改革者たちも説いた神学であった。その経験で完全というなら、イエスの至聖所の働きは不要である。聖所の働きで十分である。聖潔を完成するのは至聖所における最後のあがないにおいてであることが、上記の大争闘下の言葉で分かる。221頁には「救い主の仲保の恵みにあずかりたいと思うものは、神を畏れつつ聖潔を完成していくというその義務を何ものにも妨げられてはならない」とある。聖潔の完成は、至聖所においてなされることが222頁に書いてある。

罪なき完全な状態にされることは、「完全主義」ではない。つまり、もう自分は罪を犯さない、罪がないと主張することではない。自分は無、キリストがすべてということである。黙示録 15:4。

まとめると：

1. 生まれながらの性質が罪だから、罪は犯さなくなってもその根、泉、すなわち原罪、罪性、生来の罪は再臨の時まで残る。

この思想は、至聖所の最後のあがないを不要とするのではなからうか。

2. 罪とは律法に違反することだから、自由意志で完全に罪を犯さなくなった時、勝利した時、完

全な品性を持つことになる。

ある人は、先の雨で完全な品性に到達したら、後の雨が注がれ、裁きに準備ができると考える。この思想も、至聖所の最後のあがないを不要とするのではなかろうか。

「サタンは、数えきれないほど多くの策略を考え出してわれわれの心を捕え、われわれが最もよく知っていなければならない働きそのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに、万事がかかっていることを、彼は知っているのである」。大争闘下 221

「…我々は神学的荒野をさまよってきた」。デニス・ブリービー

「教団は、信仰による義認の理解にきわめて重要な分野—キリストの性質、完全、原罪—についての意味を明らかにすることが出来なかった。その結果教会の内部に様々な神学の思潮が存在するようになり、わが教会員を混乱状態に陥れた」。フランスシス・キャンベル（元アフリカ、ユニオン・カンファレンス総理）

- 十字架で贖いは終わった。至聖所における「特別な、最後のあがない」というのは意味がない。
- 罪なき完全は、再臨前は不可能。再臨の時に罪が完全に取り除かれる。
- 罪とは自由意志によって律法に違反することで、生まれながら罪人ではない。
- 神の恵みによって、信仰によって、罪に完全に勝利した時に後の雨が降る。
- キリストはアダムが罪を犯す前の性質を取られたので、我々とは違う性質を取られたのだから、キリストは我々の模範とはなりえない。
- 1888年のメッセージは、宗教改革者が説いたメッセージの回復であり、他の教派と共有するものである。

それを受け入れて教会は今日のように発展し繁栄しているのだ。

- その他、生ける者のさばきに関して、罪の除去のタイミング、後の雨に関するタイミング、神の印に関するタイミング、大いなる叫びに関する

るタイミング、144,000に関すること等々…様々な混乱が生じてきた。「後の雨は今韓国に降っている」とか「中国に降っている」とか「北米に降っている」とか指導者が鼓舞したことが何回あったことか。それでいて多くの信徒は実感しないでいる。

- 1900年の初頭にかの有名なケログ博士は天国と聖所は人間の内にあるのであって、字義通り天に存在するものではないという説を唱えた。彼の汎神論は背教のアルファと言われ、間もなく続いて背教のオメガが我が教会に来ることにE.G. ホワイトは身震いしたと言った。
- 最も影響力のあった神学者の一人フォード博士は、再臨信仰の基礎を突き崩そうとした。つまり、1844年にイエスは天の至聖所に入ったのではなく、復活してすぐに天の至聖所に入ったのだと言った。多くの牧師たちが影響を受けた。
- ワルターレー牧師は、「ホワイトの嘘—White lie」を書いて、E.G. ホワイトの著書の多くは「盗作」だと証の書への攻撃をし、一般のTVにも公開された。

挙げるときりがない。日本では、日曜休業令は日本には来ないと言いつつ指導者も出てきた。「新神学」の影響を強く受けた。

「女の残りの教会」の神学的な混乱、妥協からSDAの教育界にも、医療機関にも、牧会にも変化が起こる。我々の機関施設に未信者の働き人がだんだん増えてくる。教会成長のために、セレブレーション、小グループ、エキュメニカルを目的とした「新共同訳聖書」の導入、グローバルリーダーシップセミナーへの奨励。

未信者の学生が75～80%、第三天使の使命伝道者養成という使命は喪失。道徳退廃。婚前交渉(Adventism challenged, 442) ライフスタイルの退歩。いつのことだったか、米国で一般人の離婚率51%でSDAの離婚率49%ということがあった。

最近大きな話題になっているのは、女性牧師按手礼の問題ではなかっただろうか。世界総会で3回もその議案は非聖書的であると否決された。1990年、1995年、2015年に。しかし、あちらこちらの支部総会、特に北アメリカ支部総会は世界総会決議に反してどんどん進めている。ポールセン元世界総会総理、元北米支部総会総理、ブローン南米公衆伝道者、元世界総会総理のカルピン・ロック、元アドベント・レビュー編集長ウィリアム・ジョンソン、元アンゲル・ロドリゲツBR Iの神学者などの他に北米支部総会の牧師は、世界総会の決議を覆そうとしている。

セブンスデー・アドベンチスト、霊的イスラエルが原点から離れてどんな背教が起こっているかは日本ではあまり知らされない。英語ができる方は、インターネットで読むことができる。

1966～1979のSDA世界総会総理であったロバート・ピアソンは言った：

「…至る所の教会員たちが、アドベンチスト運動の第一の優先事は、組織的なものではなくて、霊的なもの、神学的なものでなければならないという確信において、教会の指導者たちと一致しました。たとえ私たちが、最も素晴らしい現代の経営原則を取り入れて、理想的な世界的事業を築いても、どのようにしたら、教会がその特異なメッセージを全世界に宣べ伝えることができるかを、はっきり理解しないならば、私たちの使命は失敗に終わるでしょう。教会の使命は正しい神学にかかっています」。

「使命」を失うと「アドベンチスト・ライフ」も乱れてくるものである。

「真理と神の栄光とは、切り離すことができない。われわれは、手近に聖書を持っていながら、誤った見解をもって神をあがめることはできない。多くの人々は、生活さえ正しければ、何を信じているかは問題ではないと主張する。しかし生活は信仰によって形造られる。光と真理が手近にありながら、それを聞き、それを見る特権を利用するのを怠るなら、われわれは事実上それを拒絶し、光よりもやみを選んでいくことになる」大争闘下 354。

教会へのあかし 5巻 76～84を見ると「大いなる困惑と混乱の時」が来ると言われている。

同じく 209 頁には神の民は印される直前、すなわち日曜遵守令が強要される時、「教会の最大の危機と沈下（低下、減退、不振）」は最高潮に達すると言われている。大きなふるいが近づいている。

「望みをいだく捕われ人よ、あなたの城に帰れ。わたしはきょうもお告げて言う、必ず倍して、あなたをもとに戻すことを」。ゼカリヤ 9:12

「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です」。詩 119:126

これらの約束を感謝しよう。

大祭司イエスが罪の問題を永久に処理してくださる時が間もなくやってくる！

罪が我々の心から永久に除去されることは、何と素晴らしい福音であろう！罪の赦しが一瞬で与えられるように、罪の除去も一瞬で与えられる奇跡である！日毎に忠実に悔い改めと信仰によって裁きの前に出る者にとっては。

しかし、何よりも素晴らしいのは、罪の除去は我らの主のためである。

6 BC118 「キリストに対する信仰によって神の戒めのすべてに従う物だけが、アダムが罪を犯す前に持っていた罪なき状態に到達するであろう。彼らは、神の律法のすべてに従うことによってキリストに対する愛を証するのである」。

5 T537 「罪のゆるしがイエスの死の唯一の結果ではない。彼が無限の犠牲を払われたのは、罪を取り除くだけでなく、人間の性質をその堕落から回復し、再び美しくし、再構築し、神のご臨在の前に適したものとするためである」。

イザヤ 43:25 「わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない」。

ダニエル 9:17 「それゆえ、われわれの神よ、しもべの祈と願いを聞いてください。主よ、あなたご自身のために、あの荒れたあなたの聖所に、あなたのみ顔を輝かせてください」。

イザヤ 62:1 「シオンの義が朝日の輝きのようにあらわれいで、エルサレムの救が燃えたいまつの様になるまで、わたしはシオンのために黙せず、エルサレムのために休まない」。何という忍耐、何というあわれみ深い主であろう！



書籍案内



歴史と聖書の預言

各時代の大争闘 E・G・ホワイト

1冊で 950円/冊
 10冊以上で 850円/冊
 50冊以上で 650円/冊
 100冊以上で 500円/冊

商品番号:B20-4 A5サイズ

「各時代の争闘」の再版で、カラーの写真、絵入りの、読みやすい新しいレイアウトです。現代の真理の書籍中、最も重要なこの本に至るところで秋の木の葉のように散らしましょう。あらゆる欺瞞の中にある現代人に正しい識別力を与え、真の希望を与える必読の書。

讃美歌集&CD 契約の虹

讃美歌 160 選



商品番号:B70-1 A5サイズ、歌集 1,600円
 :C70-1 CD8枚組 4,000円
 :BC70-1 歌集&CDセット 5,000円

日本基督教団讃美歌、聖歌、リバイバル聖歌、他から160曲を選びました。音程が高い調は低くして歌いやすくしています。全160曲を収録した音楽CDもあります。



人類救済の神の計画とその象徴的模型としての聖所

及川 吉四郎 500円

商品番号:B12-5 A5サイズ

クリスチャン品性の完成という目標、理想と現実の狭間からついに天の至聖所に解決の光りを見出した著者の体験を綴った本。大失望のどん底から喜びと希望と確信を与えた同じ探求が大試練を乗り越えるより大なる喚起に導く!



日本人の宗教心—何が信仰の対象か

及川 吉四郎 1,500円

商品番号:B13-3 A5サイズ

日本人は多民族、宗教も多宗教、「ごっちゃませ宗教」「チャンポン神」と著者は言うはばかりません。日本の神道、仏教がいかに変容して来たかに特にメスを入れ、聖書の絶対唯一、創造神に立ち返る以外に救いはないと著者は訴えています。



MISSION PILOT ミッションパイロット

アイリーン・ラントリー 650円

商品番号:B50-1 A5サイズ

“MISSION PILOT”は神様の偉大な働きと導き、デイビッド・ゲイツ夫妻の人生への神様の驚くべき介入を世の人々に叫んでいます。



現代の真理

500円

商品番号:B41-1 A5サイズ、168頁

この本を正しく研究するなら、再臨信徒の困惑を整理し、魂の飢えを満たす。終末事件の研究から、今がその時であることを知る。さまざまな教理の風に吹きまわされないために、正しく理解する必要がある。

SUNRISE MINISTRY
 サンライズ ミニストリー刊行誌

Anchor

アンカーNo.59
 発行人 金城 重博

〒905-0428
 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471
 E-mail: contact@srministry.com
 郵便振込番号: 02080-0-12121
 サンライズミニストリー

www.srministry.com

TEL (0980) 56-2783

FAX (0980) 56-2881

「アンカー」:目的と編集指針

私たちは次のことを信じてアンカーを出版しています。

1. 我々SDAの働きと使命は三天使の使命である。(6T 384, 2SM 142)
2. 三天使の使命は人々をキリスト再臨に備える特別な最後の使命である。(9T 98, 大争闘下 140)
3. 三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別な贖い清めを受ける。(初代文集 414, 5,7)
4. 我々は神のご計画されたこの特

別な祝福、特別な経験を拒み続けてきた。特に1888年以来(RH26,1890年)

5. ダニエル書8:14の聖句は再臨信仰の土台であり、み業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生き残る人々 422, EV 221, 5T 575)
6. エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同様の靈感が与えられた預言者である。(1SM 36)
7. 最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー(錨)は、三重の使命、聖所、安息日、人の性

質、イエスの証(預言の霊)等である。(黙12:17, 19:10,22, 初代文集417, 1T 300)

8. アンカーはリレーの最終走者の意味もある。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世界に完成する最後の時代である。不信仰によって、150年も時が延ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(大争闘下 182, 教育 328) 信仰による義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待っておられる。再臨とみ業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとするならば、我々の

今日の、義務は何か、約束のものを受ける条件は何なのかを研究し、共に備えたい。

9. セブンスデー・アドベンチストは最後の「残りの民」である。たとい教会がどんなに背教しようとも、近い将来、「最後の試練」(黙13章)が来る時、多くの者がふるわれ、代わりに諸教会から真実な多くの者が出てきて最後の純潔な「女の残りの子ら=レムナント」を構成し(黙18章)、永遠の福音伝は短期間に終わると信じる。激しいふるいの経験をして、純潔な教会となり、永遠の神の目的がこの教会によって達成されると信じている。